

コトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外豫メ破産者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス是レ破産者ニ此等ノ行爲ニ對スル意見ヲ發表セシムル機會ヲ與ヘ遂ニ管財人ヲシテ適當ナル處置ヲ取ラシムルニ至ル爲メト管財人ノ一旦爲シタル行爲ハ破産手續終結後ニ於テモ其效力ヲ存續シ破産者ノ利害ニ關スルコト大ナルモノアルトニ由ルモノナリ現行法モ破産者ノ意見ヲ聞クコトヲ要スル點ハ同一ナリトス(舊商法第十項)又此等ノ行爲ニ付キ縱令監査委員ノ同意アリタルトキト雖モ破産者ノ申立ニ因リ裁判所ハ其行爲ノ執行ノ中止ヲ命シ之ニ關スル決議ヲ爲サシムル爲メ債權者集會ヲ招集スルコトヲ得(草案第百九十五條)債權者集會ニ於テモ管財人ノ其行爲決行ヲ可決シタルトキハ裁判所ハ草案第百七十七條ニ依リ其決議ノ執行ノ停止ヲ命スルノ外ナキノミ(舊商法第十項)又破産者ノ申立却下ノ場合ニハ即時抗告ニ依リ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルハ勿論トス(草案第百九條)以上説明シタル裁判所ノ許可監査委員ノ同意債權者集會ノ決議破産者ノ意見ヲ聽クコトノ如キハ管財人ト此等破産機關トノ内部關係ニ止マリ外部ニ對スル關係ニアラス故ニ管財人カ此等ノ規定ニ違反シテ獨斷決行シタルトキト雖

モ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(草案第百九十六條)蓋シ破産管財人ハ破産財團ニ關スル管理及ヒ處分ノ權ヲ有シ苟モ此法定ノ權限内ノ行爲タル以上ハ管財人ノ獨斷ノ行爲ヲ以テ善意ノ第三者ニ對シテハ有效ト爲サルヘカラス若シ之ニ反シ有效トセザルトキハ管財人ト取引スル第三者ハ其行爲ノ種類如何ニ依リ一々他ノ破産機關ノ同意アリタルヤ否ヤ等ヲ取調ヘサルヘカラス是レ到底不可能ノ事ニ屬ス故ニ管財人トノ間ニ爲シタル取引ノ安全ヲ害セザラシカ爲メニ其行爲ハ之ヲ有效ト看做サ、ルヘカラス然レトモ惡意ノ第三者ニ至テハ之ヲ保護スヘキ理由ナキニ依リ唯リ善意ノ第三者ノミヲ保護スルニ止マルモノトス(草案第百九十六條)尤モ現行法ニハ斯ル明文ナキカ故ニ固ヨリ此ノ如ク論斷スルコトヲ得ス寧ロ其行爲ヲ無効トナスヘキモノトス又管財人自身ハ斯ル法則違反ノ行爲ニ對シテ民事上並ニ監督上ノ責任ヲ負フハ勿論トス(草案第百六十一條、第百六十三條、舊商法第百四十二條)今左ニ其各號ノ行爲ノ概要ヲ説明スヘシ

一 遺産相續又ハ遺贈ノ拋棄 是レ通常存在スヘキ行爲ニアラサルノミナラ



一、ス之ニ因リテ破産財團ノ減少ヲ來スニ由ル(草案第百九十二條第一項第一號)  
 今草案カ家督相續ヲ除去シタルハ是レ其承認ハ破産者自身ノ權限ニ屬シ限定  
 承認ヲ爲スヘキモノト爲シタルニ由ル(草案第百九十五條)  
 二、不動産又ハ船舶ノ任意賣却トハ競賣ノ反對ヲ意味ス競賣ハ公  
 平ナル換價方法ナレトモ任意賣却ハ或ハ不正ノ所爲ノ行ハレ易キヲ以テナ  
 リ故ニ不動産又ハ船舶ハ通常競賣ノ方法ニ依ル(草案第百九十二條第一項)現  
 行法ニハ斯ル制限ナク唯不動産ヲ買入ルハコトニ付キ破産主任官ノ認可ヲ受  
 クヘキモノトセリ是レ不動産ノ買入レノ如キハ極メテ異常ノ事ニシテ財團  
 不ノ通常ノ管理行爲ト見ルヘキモノニアラサレハナリ(草案第百九十九條)  
 三、鑛業權、漁業權、特許、意匠、專用權又ハ著作權ノ讓渡  
 四、營業ノ讓渡  
 五、商品ノ一括賣却  
 六、借財 是レ亦通常ノ管理行爲ト異ナリ利害ノ關スルモノ大ナルニ由ル(草案

一、商法第百九十二條第一項第六號(草案)  
 七、百圓以上ノ價額ヲ目的トスル債權ノ讓渡、債權ノ讓渡ハ其取立、相殺等ト  
 異ナリ通常ノ換價方法ニアラサルニ由ル現行法ニハ債權ノ額ニ制限ナシ又  
 轉付ト云ヘルモ是レ讓渡ノ意義ニ外ナラス(草案第百九十二條第一項第七號)  
 八、雙務契約ノ履行請求 是レ財團債權ヲ生シ破産財團ヲ減少セシムルニ由  
 ル(草案第百九十二條第一項第八號)  
 九、訴ノ提起 是レ訴訟費用負擔ノ結果ヲ生シ重要ナルニ由ル而シテ訴ノ提  
 起タル以上ハ本訴、反訴及ヒ督促手續ヲモ包含ス(草案第百九十二條第一項第  
 十、訴訟受繼ノ拒絕 是レ亦財團ノ減少ヲ來スニ由ル(草案第百九十二條第一  
 十一、和解及ヒ仲裁契約 是レ亦訴訟行爲ト同視スヘキニ由ル(草案第百九十  
 十二、權利ノ拋棄及ヒ義務ノ承認 是レ亦財團ノ減少ヲ來スニ由ル義務ノ承

破産法 破産財團ノ管理及ヒ換價 他ノ破産機關ノ參與



十 認トハ例ヘハ別除權、財團債權等ヲ認ムルカ如シ(草案第百九十二條第一項第  
二項第八號、第九號)

十三 別除權ノ目的ノ受戻 是レ一方ニ於テハ別除權ノ成立ヲ承認シ他方ニ  
於テハ受戻シタル目的物ヲ以テ時トシテ完済スルコト能ハサル義務ヲ承認  
シテ之ヲ辨済スルニ至ルモノナレハナリ(草案第百九十二條第一項第十三號、  
舊商法第百九十九條第二項第三號)

第五 管財人ノ報告 第一回ノ債權者集會ニ於テ管財人ハ支拂不能ノ原因、破産  
財團ニ關シテ爲シタル處分例ヘハ營業ノ繼續ノ如キ其他破産財團ノ狀況ニ付  
キ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ要ス(草案第百九十九條) 是レ債權者集會ヲシテ監査委員  
ノ設置、扶助料ノ給與、營業ノ繼續、高價品ノ保管方法等ヲ決議セシメンカ爲メナ  
リ又債權者集會ハ爾後管財人ヲシテ該集會又ハ監査委員ニ破産財團ノ狀況ヲ  
報告セシムル方法並ニ時期等ヲ定メテ之カ報告ヲ爲サシム(草案第百一  
條第二) 是レ債權  
者ノ利益保護上必要ナレハナリ

### 第四節 特別破産ノ財團ノ換價

第一 法人ノ破産ノ場合 各種ノ商事會社其他ノ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル

場合ニ於テ其現存財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ其社員又ハ株主  
ノ出資義務ハ破産財團ニ屬スヘキ財産ナルコト明カナリ仍テ管財人ハ其出資  
ノ取立ヲ爲スコトヲ得サルヘカラス而シテ其取立ハ破産手續ヲ速カニ終了セ  
シムル爲メニ辨済期ノ如何ニ拘ハラス之ヲ爲スコトヲ得セシメサルヘカラス  
是レ草案第百三條ノ規定アル所以ナリ

第二 無限責任又ハ保證責任ノ産業組合並ニ相互保險會社ノ破産ノ場合 此等  
ノ破産ノ場合ニ於テ其組合又ハ會社ノ現存財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナ  
ルトキハ其組合員又ハ社員ノ責任ノ限度内ニ於ケル拂込義務ハ破産財團ニ屬  
スルコト勿論ナリ蓋シ組合員又ハ社員ハ組合又ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ノ  
義務ヲ負フコトナク唯組合又ハ會社ニ對シテノミ責任ヲ負フ仍テ破産管財人  
ハ其組合員又ハ社員ヲシテ責任ノ限度内ニ於テ拂込ヲ爲サシム草案第百四  
條乃至第百十六條ハ其手續ニ付キテ規定シタルモノナリ(草案第百十七條、  
業組合法第百十七條、  
第三十七條、第三十七條)

第三 匿名組合契約ニ於ケル營業者ノ破産ノ場合 匿名組合ハ營業者ノ破産ニ



因リテ終了スルモ匿名組合員カ未タ全部ノ出資ヲ爲サ、リシトキハ組合終了當時ニ於ケル組合員カ負擔スヘキ損失ノ額ハ營業者ノ破産財團ニ屬スルモノトス仍テ管財人ハ其額ヲ限度トシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得(草案第二百三十三條)

### 第十五章 破産債權ノ届出及ヒ調査

#### 第一節 破産債權ノ届出

第一 届出期間 裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ債權届出ノ期間ヲ定ム其期間ハ草案ニ依レハ破産宣告ノ時ヨリ起算シテ二週間以上四ヶ月以下タルコトヲ要シ現行法ニ依レハ短クトモ三ヶ月長クトモ六ヶ月以下タルコトヲ要ス此範圍内ニ於テ裁判所ハ事件ノ大小ニ依リ適當ト認ムル所ニ從ヒ之ヲ定ム其定ム方ハ何月何日マテトシテ最終ノ日ヲ示スモ可ナリ又何週間又ハ何ヶ月間トスルモ可ナリ若シ此法定範圍ヲ超エタル又場合ハ不當ニ長短アルトキハ當事者ハ即時抗告ニ依リテ不服ヲ申立ツルコトヲ得(草案第四百九十九條第一項第一號、第四百九十九條第九百八十條第一項第五號)其期間ノ起算點ハ草案ニハ破産宣告ノ時ヨリト云フニ由リテ之ヲ觀レハ

其時ヨリ起算スト解スルヲ至當トス現行法ハ破産決定ノ公告ニ因リテ届出ツヘキ旨ノ催告ヲ受ケタルモノトスト云フニ依リテ之ヲ觀レハ其公告ノ時ヨリ起算スルヲ至當トス(舊商法第一千二百一十三條第一項)又此届出期間ハ公告シテ利害關係人ニ知ラシムルノミナラス知レタル債權者ニハ之ヲ送達シテ特ニ之ヲ保護ス然ルニ現行法ニ依レハ其書面カ到達セラレサルカ爲メニ損害ヲ被ムルコトアルモ其賠償ヲ請求スルコトヲ得スト規定セリ是レ固ヨリ當然ノ事トス(草案第二百二十五條第四項)

現行法ニ於テハ外國所在ノ債權者ノ爲メニ債權ノ届出並ニ調査ノ爲メ特別ノ期間ヲ定ムルノ制度ヲ採レリ(舊商法第一千二百一十九條末段)草案ハ此主義ヲ採ラス債權届出期間ハ不變期間ニアラス故ニ期間ヲ懈怠スルモ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス(民訴第四百七十四條)又此期間ハ除斥期間ニハアラス故ニ此期間經過後ノ届出モ亦有效ナリ唯期間後ニ届出テタル者ハ自ラ其不利益ヲ被ムルノ後ニ説明スヘシ(草案第二百二十九條以下)

第二 届出ノ方法 届出ハ現行法ニ於テハ破産主任官ニ向テ之ヲ爲ヌ草案ニ於



テハ裁判所ニ向テ之ヲ爲ス管財人ニ向テ之ヲ爲スモ無効ナリ届出ノ目的物ハ  
 債權ノ額及ヒ原因若シ優先權アルトキハ其權利ナリトス而シテ其成立ヲ證ス  
 ル爲メニ證據書類又ハ謄本ヲ提出スルコトヲ要ス債權ノ額ハ日本貨幣ニ評價  
 スルコトヲ要ス原因トハ例ヘハ貸金又ハ賣掛代金ト明示スルカ如シ優先權ニ  
 付テモ例ヘハ一般ノ先取特權ナルヤ否ヤ等特定ノ優先權タルコトヲ明示スル  
 コトヲ要ス此届出ノ目的物中金額及ヒ原因ノ二者ハ必要條件ニシテ之ヲ缺カ  
 ハ全然届出ノ効ナシ優先權ニ至テハ之ヲ缺クモ通常債權トシテ取扱ハルハノ  
 不利益ヲ被ムルノミ後日優先權ノミヲ届出ツルトキハ特別ニ調査セラル又證  
 據書類又ハ謄本ノ提出ヲ缺クモ是レ債權存立ノ證據問題ニ關係アルノミニテ  
 届出ヲ全然無効トスルニ至ラス(草案第十四條、第二百二十二條、舊  
 商法第四百二十三條、第一項、未段)  
 届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス書面ヲ以テスル場合ハ現行法ニ依レハ二  
 通ヲ要ス是レ一通ハ管財人ノ用ニ供セシメシカ爲メナリ草案ハ一通ニテ足り  
 之ヲ裁判所書記課ニ備ヘ置キ裁判所ト管財人ノ兩用ニ供ス口頭ヲ以テスル場  
 合ハ裁判所書記之カ調書ヲ作ル現行法ニ於テハ書記ハ其謄本ヲ作り之ヲ管財

人ニ交付ス(草案第一百十一條、第二百二十五條、舊商法第  
 千二百三十三條、第三項、第四百二十四條、第二項)

届出ニハ代理人ヲ使用スルコトヲ得委任ノ有無ハ職權ニ依リ裁判所之ヲ調査  
 スヘシ草案ニテハ破産ハ區裁判所ノ事件ニ屬セシメタルカ故ニ辯護士ニ依頼  
 スルコトヲ要セサレトモ現行法ハ地方裁判所ノ事件トナセルカ故ニ辯護士ヲ  
 要ス殊ニ現行法ニ於テハ他所ニ住スル債權者ハ裁判所所在地ニ代人ヲ置クヘ  
 キモノトシ其届書ヲ提出スヘキモノトシタリ(民訴法第六十三條、舊商法第  
 千二百三十三條、第二項、第三項)

第三 届出ノ效力 届出カ不適法ナリシトキハ之ヲ却下ス債權者ハ之ニ對シテ

即時抗告ヲ爲スコトヲ得(草案第九百八十三條、舊商  
 法第九百八十三條)届出カ適法ナリシトキハ破産債權  
 者トシテ債權者集會ニ於テ議決權ヲ行ヒ又其調査ヲ受ケテ債權ヲ確定セシメ  
 爾後破産手續上ヨリ生スル利益ニ與カルコトヲ得又時効ヲ中斷ス(民法第三百四  
 十號、第五百五  
 十二條)其中斷ノ效力ハ破産手續ノ終結若クハ廢止(現行法ニマテ繼續ス(民法  
 第十七條)尤モ獨立シテ個々ノ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルコトノ如キ又ハ強制利  
 議ニ服従スルコトノ如キハ債權ノ届出ヲ爲シタルト否トニ關係ナキモノトス

(草案第八條、第三百十五條、  
 舊商法第九百八十七條)

破産法 破産債權ノ届出及ヒ調査 破産債權ノ届出



届出期間後ニ於テ届出テタル事項ニ付キテ變更ヲ爲シタルトキハ恰モ新ナル届出アリタルモノ、如ク之ヲ取扱フ例ヘハ債權ノ額ヲ増加シ他ノ成立原因又ハ新ナル優先權ヲ主張スルトキノ如シ(草案第二條)

又届出ハ破産手續ノ終結スルマテ債權者ハ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得其取下ニハ破産者ノ承諾ヲ要セス取下クルトキハ時効中斷ノ效力ヲ生セス(法民第百五條)取下後再ヒ届出ツルコトヲ妨ケス

**第四** 別除權者ノ届出 別除權者ハ其別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル殘額ニ付キテノミ破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得ルニ止マルカ故ニ(草案第九十三條 舊商法第九十九條)其届出ヲ爲スニ當リテハ普通破産債權者ト同シク債權成立ノ原因等ヲ届出ツルハ勿論別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ豫定額ヲ届出ツルコトヲ要ス若シ其債權ノ全額ヲ届出ツルトキハ其別除權ヲ拋棄シタルモノト看做サル(草案第二百二十三條)

**第五** 債權表ノ作成 債權ノ届出アルトキハ裁判所書記ハ其届出ノ日時ヲ届書ニ附記スルコトヲ要ス是レ届出期間内ニ届出テタルコトヲ知ル爲メト時効ノ

中斷サレタル時期ヲ知ル爲メトニ必要ナルヲ以テナリ而シテ書記ハ債權表ヲ作り草案第二百二十四條列舉ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス書記ハ其記載ニ付キ債權ノ取捨ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ彼ハ毫モ債權調査ノ權限ヲ有セサレハナリ又届出ノ適法ナルヤ否ヤノ判斷モ亦裁判所之ヲ爲スヘキモノニシテ書記ハ之ヲ決定スヘキモノニアラサルナリ債權表ハ畢竟債權ノ調査又ハ配當ノ便宜ニ供スル爲メノ準備書面ニシテ縱令之ニ記載漏レアリトスルモ適當ノ時期ニ届出テタル債權タル以上ハ一般調査期日ニ於テ調査ヲ爲スコトヲ得又書記ハ債權表ノ謄本ヲ作りテ之ヲ管財人ニ交付ス(草案第二百二十四條第二項)現行法ニ依レハ届出ハ之ヲ受取リタルトキ直チニ順次番號ヲ付シテ二箇ノ表ニ記載ス一ハ優先權アル債權ヲ掲ケ他ハ通常ノ債權ヲ掲ケ是レ一覽ノ便宜ノ爲メナリ(舊商法第二十條)草案ニ於テモ記載ノ方法ハ適宜便利ノ方法ヲ取ルニ至ルヘシ

**第六** 届出ニ關スル書類竝ニ債權表ノ閱覽 債權届出ニ關スル書類例ヘハ債權者ノ届出テタル書類書記ノ調査等竝ニ書記ノ作りタル債權表ハ利害關係人即



チ破産者破産管財人監査委員破産債権者等ノ閱覽ニ供スル爲メ裁判所書記課ニ之ヲ備ヘ置ク(草案第二百二十五條)是レ彼等ノ權利保護ノ爲メニ必要ナレハナリ尤モ現行法ニ於テハ債權表ノミヲ展閱ニ供シ届出書類ニ及ハス(舊商法第一千二十四條第一項末段)

### 第二節 破産債権ノ調査

第一 一般調査ノ期日 裁判所カ破産宣告ト同時ニ定メタル債權調査ノ期日ヲ債權調査ノ一般期日ト云フ(草案第九百八十九條第一項第六號)此期日ト債權届出期間ノ末日トノ間ニハ草案ニ依レハ一週間以上一ヶ月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要シ現行法ニ依レハ十日乃至十五日ノ期間ヲ存スルヲ通例トス(舊商法第一千二百五十五條第三項)是レ其調査ノ爲メノ準備ヲ爲サシメンカ爲ナリ故ニ若シ其期間ニ過不足アルトキハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二 調査ノ目的物 債權ノ調査ノ目的ハ届出テタル債權カ破産債權トシテ能ク破産手續上權利ヲ行ハシムルニ足ルヤ否ヤヲ確定セシムルニ在リ故ニ調査ノ目的物ハ債權ノ存否額及ヒ優先權ノ有無ナリトス(草案第二百二十六條)判事ハ唯リ債權表ノミニ依ラス届書ニ付キ調査ヲ爲シ若シ債權表ニ記載漏レアルトキハ之

ヲ補充セシム是レ各債權ニ付キ調査ノ結果ヲ記載スル爲メニ必要ナレハナリ

第三 調査ノ方法茲ニ參加人 調査ノ期日ニ於テハ草案ニ依レハ破産裁判所現行法ニ依レハ破産主任官之ヲ指揮監督シ其開始及ヒ終結ヲ司ル而シテ手續ハ口頭ニシテ其調査ヲ作成スヘキモノトス(舊商法第一千二百五十五條第一項)裁判所ハ豫メ調査ヲ爲シ不適法ナル届出ヲ却下シ脱漏アルモノハ債權表ニ補充セシメ之ヲ當事者ノ調査ニ附ス又現行法ニ依レハ破産主任官ハ債權者ニ取引張簿若クハ其抜書ノ提出ヲ命スルコトヲ得是レ其債權ノ存在ヲ知ルニ便ナラシメンカ爲ナリ(舊商法第一千二百五十五條第二項)

調査ニ參加スヘキ者ハ破産管財人破産者及ヒ届出ヲ爲シタル破産債權者ナリトス管財人ハ債權調査ノ期日ニ出頭シテ其意見ヲ述フルコトヲ要シ病氣其他ノ正當ナル事由アル場合ニ限り代理人ヲシテ其意見ヲ述ヘシムルコトヲ得管財人又ハ其代理人ノ出頭ハ調査ノ必要條件ニシテ之ナクハ調査ヲ爲スコトヲ得ス(草案第二百二十七條)破産者ノ出頭ハ必要ニ非スト雖モ調査ノ便宜ノ爲メニハ其出頭アルコトヲ要シ裁判所ハ彼ノ出頭ヲ強制スルコトヲ得殊ニ



破産手續終結後ノ彼ノ利益ヲ保護スルカ爲メニハ自ラ進シテ其意見ヲ述フル  
 コトヲ要ス(草案第二百二十七條第一項)又届出ヲ爲シタル破産債権者ハ自己ノ  
 權利ノ自衛ノ爲メ債権調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ得ルハ勿論  
 トス然レトモ彼ノ出頭ハ任意ナリトス又代理人ヲ使用スルコトヲ得(草案第二  
 條第二項舊商法第千二百二十五條第一項)届出ヲ爲サル破産債権者ハ参加ノ權利ナキハ勿論トス  
**第四** 期間後ノ届出 届出期間後ニ届出テタル債権モ亦破産債権トシテ破産手  
 續ニ参加スルコトヲ得然レトモ其調査確定ニ付テハ管財人及ヒ破産債権者ノ  
 異議ナキトキニ限り債権調査ノ一般期日ニ於テ其調査ヲ爲スコトヲ得蓋シ之  
 カ爲メニ他ノ債権ノ調査ヲ遅延シ他ノ債権者ニ不利益ヲ來スコトアレハナリ  
 仍テ管財人又ハ他ノ破産管財人ノ異議アリタルトキハ期間後届出ヲ爲シタル  
 債権者ノ爲メニ債権調査ノ特別期日ヲ定ム此場合ニ於テハ其費用ハ期間後ニ  
 届出ヲ爲シタル破産債権者ノ負擔トス(草案第二百二十九條舊商  
 法第千二百二十五條第四項)其費用ノ中ニ  
 ハ裁判所ノ費用ハ勿論之カ爲メニ管財人ノ報酬ヲ幾分増加スヘキトキハ其部  
 分特別期日ノ公告費用他ノ破産債権者ノ出頭費用等ヲ包含ス

届出期間後ニ其届出テタル事項ヲ變更シタル場合ニハ新シキ届出ト同一視ス  
 ヘク又債権調査ノ一般期日後ニ届出テタル債権ニ在リテハ特別期日ヲ定ムル  
 ノ外ナキモノトス又其期間後届出テタル債権者ハ特別期日ヲ定メシムル權利  
 アルモノトス(草案第二百三十一條)  
 債権調査ノ特別期日ニ關スル決定ハ管財人破産者及ヒ届出ヲ爲シタル破産債  
 権者ニ送達スルコトヲ要シ又其期日ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス(草案第二  
 百三十二條)是  
 レ一般期日ニ關スル場合ト同一ノ理由ニ基ク(草案第百五十二條)又特別期日ニ關スル決  
 定ニ付テハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(草案第百三十四條)是レ手續ノ遅延ヲ恐ルレハ  
 ナリ  
**第五** 調査期日ノ變更延期並ニ續行 破産管財人ノ出頭スルコト能ハサルコト  
 ノ如キ其ノ他期日ニ於テ調査ヲ爲スコト能ハサル事由カ豫知セラレタル場合  
 ニハ裁判所ハ期日ノ變更ヲ爲スコトヲ得此場合ニ送達又ハ公告ヲ爲スコトヲ  
 要スレハ勿論トス又一旦期日ヲ開始シタルモ調査ヲ爲スコト能ハサル場合  
 ハ延期ヲ爲スコトヲ得又調査ヲ始メタルモ全部終了スルニ至ラザル場合ハ



續行期日ヲ定ムヘキモノトス延期又ハ續行期日ヲ定メタル場合ニ於テ其決定ヲ言渡シタルトキハ送達又ハ公告ノ必要ナシ又此等ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス是レ手續ノ遅延ヲ恐ルレハナリ(草案第二百三十四條)

### 第二節 破産債權ノ確定

第一 債權確定ノ要件 債權調査ノ期日ニ於テ即チ其一般期日タルト特別期日タルトヲ問ハス破産管財人及ヒ届出ヲ爲シタル破産債權者ノ異議ナカリシトキ又ハ其期日ニ於テハ異議アリタリトスルモ後日其異議カ除去セラレタルトキハ債權ハ之ニ因リテ確定ス(草案第二百三十五條舊商法第千二十六條第一項) 債權調査ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘテ債權ノ確定ヲ妨ケ得ルモノハ管財人及ヒ届出ヲ爲シタル破産債權者ナリトス又調査ノ手續ハ口頭ナルカ故ニ縱令届出ヲ爲シタル破産債權者ト雖モ調査ノ期日ニ自ラ出頭セス又ハ代理人ヲ出サスシテ口頭ニテ異議ヲ述ヘサルトキハ不可ナリ換言スレバ豫メ書面ヲ以テ異議ヲ述ヘ置クモ其效ナシ 又破産者ノ異議ハ破産手續中ニ於テハ其效ナシ蓋シ破産者ノ異議ヲ有效トス

ルトキハ異議ヲ述ヘテ破産手續ノ終結ヲ遅延セシムルノ虞アルノミナラス破産財團ニ關スル點ニ付テハ管財人能ク其利益ヲ代表シテ異議ヲ述フルヲ以テ足レリトスレハナリ破産者ノ異議ハ唯破産財團ニ關係ナキ財産ノ爲メニ換言スレハ破産手續終結後ニ始メテ有效タルナリ即チ破産者ノ異議ハ恰モ破産手續終結後ニ於ケル債權確定ニ反對スル留保ニ相當シ破産者カ一旦異議ヲ述ヘタルトキハ破産手續中ハ他ノ異議ナキカ爲メニ確定債權トシテ取扱ハレ之ニ對スル配當等ヲ受クヘシト雖モ破産手續終結後ハ其殘額タル債權ノ爲メニ債權表ニ基キテ破産者ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス必スヤ破産者ノ留保シタル異議ヲ排除スル爲メニ新ナル訴訟ヲ起スカ又ハ和解其他ノ手段ニ依リテ他ノ債務名義ヲ取得スルニアラスンハ強制執行ヲ爲スコト能ハサルナリ(草案第二百三十八條以下) 故ニ債權調査ノ期日ニ於テ破産者カ異議ヲ述ヘタル債權ニ付キ既ニ訴訟カ繫屬セルトキハ債權者ハ破産手續終結後ニ於ケル強制執行ヲ爲ス爲メニ破産者ヲ相手方トシテ其訴訟ヲ受繼クコトヲ得(草案第二百四十五條) 是レ我草案トシテハ第八條ノ例外ヲ成スモノナリ



草案ハ右ノ如ク破産者ノ異議ノ爲メニ破産手續終結後ニ於ケル其效力ヲ認ムル主義ヲ採リタルモ現行法ニ於テハ破産者ノ異議ハ絶對ニ其效力ヲ認メス苟モ破産手續ニ依リテ確定シタル債權者ハ破産手續終結後ニ於テモ債權表ニ基キテ直チニ強制執行ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲セリ(舊商法第千四十九條)草案ニ在リテモ破産者カ調査ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘサリシ債權ニ付テハ破産手續後破産者ニ對シテモ確定シタリトナスハ現行法ト同一ナリ尤モ草案ニ在リテハ破産者カ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ調査ノ期日ニ出頭スルコト能ハス爲メニ異議ヲ述フルコト能ハサリシ場合ニ付テハ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得セシメタリ(草案第百八十四條)現行法ニ於テハ右ノ外草案ニ比スレハ異議ヲ申立ツヘキ債權者ニ付キ制限ヲ設ケタリ即チ草案ニ依レハ届出ヲ爲シタル破産債權者ハ皆異議ヲ申立ツルコトヲ得ルモ現行法ニ於テハ債權ノ確定シ若クハ貸借對照表ニ掲ケシ債權者ノミニ限レリ是レ自稱債權者ノ妄ニ異議ヲ述フルコトヲ恐レタルニ依ルモノナリ又管財人自身ノ有スル債權ノ承認又ハ異議ハ破産主任官カ其管財人ニ代ハ

リテ之ヲ爲スモノト爲セリ(舊商法第千二十六條)是レ自己ノ債權ニ對シテ自ラ之ヲ承認シ又ハ異議ヲ述フルハ不當ナリト認メタルニ依ルモノナリ異議ノ除去セラル、コトハ種々アルヘシト雖モ異議者自ラ其異議ヲ取下ケタルトキノ如キ又ハ異議者自身ノ債權カ不存在ト確定シタルカ爲メニ破産債權者トシテ其權利ヲ主張スルコト能ハサルニ至リ其者ノ主張シタル異議カ自ラ其效力ナキニ至リタルトキノ如キ又ハ異議ヲ述ヘタル債權者カ其届出ヲ取消シタルトキノ如キ又ハ異議ヲ理由ナシトシタル判決カ確定シタルトキノ如キ即チ是ナリ異議ニ關スル訴訟ニ付テハ次節ニ述フヘシ調査ノ期日ニ於ケル異議ニ付テハ其理由ヲ述フルノ必要ナシ其理由ヲ述フルモ異議ニ關スル訴訟ニ於テ其拘束ヲ受クルコトナシ又優先權者ハ自己ヨリ劣等ナル債權ニ付テハ異議ヲ述フルコトヲ得ストノ說ナキニアラスト雖モ劣等債權者ト雖モ債權者集會ニ於テ議決權ヲ行フ等破産手續ニ參與スル點ヨリ見レハ優先權者ト雖モ劣等債權ノ存否ニ付キ利害ノ關スルモノナシト云フヘカラス故ニ優先權者モ亦劣等債權ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ヘシ



第二 調査ノ結果ノ記載 債權調査ニ付テハ他ニ調書ヲ作ルト雖モ尙ホ其調査ノ結果ヲ明瞭ニセシカ爲メニ其結果ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス即チ如何ナル額ニ於テ又ハ如何ナル優先權ニ付テ異議アルカ又異議者ハ何人ナルカ等ヲ記載スルコトヲ要ス異議ノ理由ハ別ニ記載スル必要ナシ又確定債權ニ付テハ固ヨリ確定ノ旨ヲ記載スルモ之ニ付テハ特別ノ意味ヲ有スルカ故ニ次項ニ於テ之ヲ説明スヘシ又債權表自身カ調査ニ關スル調書ノ構成部分ヲ成スカ故ニ判事竝ニ書記ハ之ニ署名捺印スヘシ(民訴第百三十二條)又書記ハ確定シタル債權ノ證書例ヘハ手形ノ如キ又ハ貸金證書ノ如キ債務證書ニ確定ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス是レ債權者ヲシテ其債權ノ處分ヲ容易ナラシメシカ爲メナリ現行法ニ於テハ異議アリタル場合モ亦之ヲ附記セシムルモノハ如シ又調査ノ結果ヲ各債權者又ハ其代理人ニ告知スルコトヲ要スルモ(草案第百二十六條舊商法)

第三 債權確定ノ記載 債權確定ノ要件ハ既ニ説明シタルカ如ク管財人又ハ參加債權者ノ異議ナキコト、若シ異議アリタリトスルモ其異議ノ除去セラレタ

ルコト、ニ在リ故ニ此要件ヲ充タシタリトスルモ未タ債權表ヘ確定ノ旨ヲ記載セサル間ハ唯確定シ得ル状態ニ在リト云フニ止マリ未タ確定判決アリト云フコトヲ得ス即チ債權表ヘノ確定ノ記載ハ確定要件ノ存在ヲ證明スル爲メノ調書作成ヲ意味スルト同時ニ裁判ヲ含ミ記載自身ニ因リテ確定判決ノ效力ヲ付與スルモノナリ故ニ記載自身カ重要ナル事項ニ屬ス(草案第百三十七條)現行法ニ於テモ確定判決ト同一ノ效力ヲ發生スルハ其債權表ヘノ附記以後ナリト云フヲ可トス(舊商法第百二十五條第二項後段)又其記載ニ因リテ判決同様ノ效力ヲ有スルハ破産債權者ノ全員ニ對スルモノトス其全員トハ即チ届出ヲ爲シタル債權者タルト否トヲ問ハス又債權調査ノ期日ニ出頭シタル債權者タルト否トヲ問ハサルモノトス

第四節 異議ニ關スル訴訟

第一 總說

一 夫執行名義又ハ終局判決アル債權ト斯カル名義ナキ債權 既ニ述ヘタル如ク異議アル債權ヲシテ確定セシムルニハ其異議ヲ除去スルコトヲ必要トス



而シテ之ヲ除去スルニハ通常ノ訴訟ニ依ル然ルニ訴訟ニ因リテ其異議ヲ除去スルニ付キ草案ニ於テハ既ニ執行力アル債務名義又ハ終局判決アル債權トモスカル名義ナキ普通債權トノ二者ヲ區別シテ其取扱ヲ異ニセリ即チ後者ニ在リテハ異議ヲ除去スル爲メニ破産債權者ヨリ異議者ニ對シ訴訟ヲ提起シテ其債權ノ確定ヲ求ムルコトヲ要シ前者ニ在リテハ其既ニ存セル債務名義又ハ終局判決ノ效力ヲ重シ一應ハ其債權ノ存在アルモノトシ異議者ニ於テ其異議ヲ主張セントセハ却テ斯カル名義アル債權者ニ對シ訴訟ヲ提起シテ以テ其債權ノ排斥ヲ努メサル可ラス故ニ無名義債權者ハ停止條件附ニ破産手續ニ參加シ有名義債權者ハ解除條件附ニ破産手續ニ參加スト云フヘキナリ(草案第二百三十八條)而シテ右名義ノ有無ニ付テハ届出ノ際ニ於テ債權者ヨリ裁判所ニ證明セサルヘカラス然ルニ現行法ニ於テハ斯カル區別ヲ設ケス債權ノ確認ヲ求ムル債權者ハ常ニ原告ニシテ異議者ハ常ニ被告タリ故ニ現行法ニ於ケル異議ニ關スル訴訟ハ恰モ草案ニ於ケル無名義者ノ異議ヲ排除シテ債權ノ確定ヲ求ムル場合ニ

該當ス(舊商法第七千二百七十七條)

二 訴訟手續 異議ニ關スル訴訟ニ付テハ破産手續以外ニ於テ通常ノ訴訟手續ニ依テ其爭訟ヲ決ス唯現行法ニ依レハ通常ノ訴訟手續ト異ル點三アリ  
 甲 裁判管轄ニ關シテ土地ノ管轄及ヒ事物ノ管轄如何ヲ問ハス異議ノ訴訟ハ總テ破産裁判所ノ管轄ニ專屬セシメタル事是ナリ法文ニ破産裁判所公廷ニ於テト云フ是ナリ是レ破産裁判所ニ於テ同時ニ管轄スルトキハ事物ノ審理上便利ナリト認メタルニ由ルモノナリ草案ニ於テハ土地ノ管轄ニ付テハ現行法ト同一主義ヲ採リ破産事件ト同一管轄内ノ裁判所ニ依ラシムルコト、爲シタレトモ事物ノ管轄ニ付テハ普通ノ主義ヲ取り現行法ト之ヲ異ニセリ之ニ關シテハ後ニ細説スヘシ(草案第二百三十九條)  
 乙 審理上ニ於テ當事者ノ辯論主義ヲ捨テ、干涉主義ヲ取レリ即チ先ツ破産主任官ノ演述ヲ聽キ原被兩造出頭シテ辯論ヲ爲スト否トヲ問ハス其審理ヲ終リ判決ヲ言渡シ闕席判決ヲ爲スモ故障ニ因テ不服ヲ申立ツルコトヲ得セシメス(舊商法第七千二百七十七條末段)是レ畢竟破産手續ヲ迅速ニ終結セシメンカ爲メナリ

破産法 破産債權ノ届出及ヒ調査 異議ニ關スル訴訟



丙 判決ノ時期ニ付テハ成ルヘク債權者集會前ニ之ヲ爲スコトヲ要スルモノトナセリ(舊商法第千二十)是レ異議アル債權ヲシテ債權者集會ニ於テ其議決權ヲ行ハシムヘキヤ否ヤヲ速ニ決議セシメンカ爲メナリ草案ニハ(乙)(丙)ノ點ニ付テハ毫モ斯カル規定ヲ設ケス全ク通常一般ノ訴訟手續ニ依ラシムルモノトナセリ

三 多數ノ異議者 多數ノ異議者アリタルトキハ破産債權者ハ其ノ總テノ異議ヲ除去スルニアラスンハ其債權ハ確定スルニ至ラス故ニ債權者ハ多數ノ異議者ヲ以テ共同訴訟人トスルコトヲ得又裁判所モ亦訴ノ併合ヲ命スルコトヲ得(民訴第百二十八條)然ルニ其多數ノ異議カ理由ノ如何ヲ問ハス若シ同一ノ爭點ニ關係スルトキハ其多數ノ異議者ハ必要的共同訴訟人トナルモノナリ何トナレハ破産關係ニ於テハ債權者ノ法律關係ハ唯一的ニノミ確定スヘキモノナレハナリ例ヘハ多數ノ異議カ其理由ハ異ナレトモ皆債權ノ成立ヲ否認シタル場合ノ如キ是ナリ然ルニ或異議ハ債權ノ成立ニ關シ或異議ハ其額ニ關シ又或異議ハ優先權ニ關スル場合ノ如キハ必要的共同訴訟ニハアラ

ス唯通常ノ共同訴訟ノミ又一異議者ニ對スル訴訟ニ於テ他ノ破産債權者ハ總テ從參加ヲ爲スコトヲ得是レ蓋シ利害ノ關スルモノアルニ由ル然ルニ此場合ニ最初異議ヲ述ヘタル破産債權者ノミ從參加ヲ爲シ得ルニ止マルト云フ說ナキニアラサルモ一方ニ於テハ單ニ異議者ト云フモ爭點ヲ異ニスルモノアルノミナラス他方ニ於テハ異議ヲ述ヘサリシ破産債權者モ利害ノ關係ヲ有スルカ故ニ從參加ヲ爲シ得ルモノト云ハサルヘカラス(民訴法第百五十三條)

四 異議ニ關スル訴ノ性質 債權者ヨリ異議者ヲ訴フルモノハ債權ノ存在、異議者ヨリ訴フルモノハ債權ノ不存在ニ對スル確認訴訟ナリトス給付ノ訴ニハアラス蓋シ債權ノ存在確定スレハ破産的配當ニ與ルコトヲ得ルカ故ニ或ハ給付ノ訴タルカ如キ外觀ナキニアラスト雖モ破産的配當ノ辨濟ヲ爲ス所ノ者ハ破産者彼レ自身ニシテ訴訟ノ相手方ニハアラス故ニ異議ノ訴、其モノヨリ云ヘハ確認訴訟ナリト云フヲ可トス

第二 債務名義等無キ債權ニ對シテ異議アリタル場合

此場合ニ於テハ債權者ヨリ異議者ニ對シテ其債權ノ確認ヲ求メサルヘカラス



異議者若クハ破産者ヨリハ債權不存在ノ訴ヲ起スコトヲ得ス而シテ此場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ債權者ニ其債權ニ關スル債權表ノ抄本ヲ交付スルコトヲ要ス(草案第二百三十八條)是レ其債權者ヲシテ調査ノ結果即チ何人カ如何ナル點ニ付テ異議ヲ申立テタルカラ知悉セシメ以テ債權確認ノ訴ヲ提起スルニ便ナラシメンカ爲メナリ

而シテ此場合ノ債權確定ノ訴ハ土地ノ管轄トシテハ破産事件ト同一管轄地内ノ裁判所タルコトニ專屬セシメタリト雖モ事物ノ管轄ニ至テハ或ハ區裁判所タル破産裁判所タルコトアリ或ハ地方裁判所タルコトアリ(草案第二十九條)然ルニ此場合ニ於ケル訴訟ノ目的物ノ價額ハ債權ノ表面額ニ依ラスシテ配當ノ豫定額ヲ標準トシ訴訟裁判所之ヲ定ム優先權ノミニ付テノ争ノトキハ優先權アル場合ト非優先權ノ場合トノ配當ノ差額ニ依ル(草案第二、四百八條)然ルニ現行法ニ於テハ破産事件ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルカ故ニ事物竝ニ土地ノ管轄共ニ破産裁判所ノ專屬ナリトス(舊商法第一千二十七條)若シ異議アル債權ニ付キ訴訟カ既ニ破産者ト債權者トノ間ニ繫屬セルトキハ

債權者ハ其債權ノ確定ヲ求メンカ爲メニハ異議者ヲ相手方トシテ其訴訟ヲ受繼クコトヲ要ス此場合ニハ異議者ハ恰モ破産者ノ位地ニ代リテ訴訟ヲ爲スモノ、如シ而シテ此場合ニ訴訟ノ受繼アリタルトキハ民事訴訟法ニ定メタル通常ノ手續ニ依ルコトヲ要ス是レ證書訴訟等ノ特別訴訟ハ債權確定訴訟トシテ不當ナリト認メタルニ依ルモノナルヘシ(草案第二、四百四條)債權者カ異議者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ訴訟ヲ受繼クコトヲ要スル目的物ノ範圍ハ債權調査ノ期日ニ於テ調査ヲ經タル事項ノミニ關スルモノトス例ヘハ先キニ届出テ、調査ヲ經タルモノヨリモ其額ヲ増加シ又ハ他ノ優先權ヲ提出スルカ如キハ全ク異議ニ關スル訴訟ノ目的ノ範圍以外ニ超脱スルモノナリ斯クノ如キハ之ヲ許スヘカラサルハ當然トス(草案第二、四百一、二條)

第三 執行力アル債務名義又ハ終局判決アル債權ニ對シテ異議アリタル場合此場合ニ於テハ異議者ヨリ異議ヲ主張セントセハ訴ヲ起スヘキコト既ニ述ヘタルカ如シ而シテ現行法ニ於テハ斯カル區別ヲ設ケサルコトモ亦既ニ述ヘタリ然ルニ此場合ニ異議者カ訴ヲ起スニハ破産者カ爲スコトヲ得ヘキ訴訟手續



ニ依ルコトヲ要ス(草案第二百四十二條)蓋シ執行力アル債務名義ヲ有スル場合ニ於テハ債權者ハ個々ノ強制執行ヲ爲シ得ヘキノ状態ニ在リ隨テ破産ノ一般ノ執行ニモ亦參加シ得ヘキヲ當然トス故ニ異議者ニ在リテハ自ラ進メテ其債務名義ヲ打破セサルヘカラス又終局判決ノ場合ニ於テモ一旦債權者ノ勝訴ニ歸シ居ルモノナルカ故ニ上訴其他ノ手段ニ依リテ其判決ヲ覆ヘスノ手段ヲ取ラサルヘカラス然ルニ其債權名義若クハ終局判決タルヤ何レモ破産者ニ對シテ有セル名義若クハ判決ナルカ故ニ之ヲ排除スルニ付テモ若シ破産ノ宣告ナカリシトキハ破産者カ現在取り得ヘカリシ手段ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス而シテ其手段ハ各名義ノ性質ニ依リテ異ナラサルヘカラス又訴訟繫屬中ニ在ルモノヲ異議者カ受繼ク場合ニ於テハ恰モ繫屬中ニ在ル訴訟ヲ債權者カ受繼キタル場合ト其状態ヲ同ウス

裁判ノ管轄ニ付テハ各場合毎ニ異ナルカ故ニ固ヨリ破産裁判所專屬ノ規定ニ依ルコトヲ得ス(草案第二百三十九條)

第四 異議ニ關スル訴訟ノ終了前ニ於ケル破産ノ終結

異議ニ關スル訴訟ノ繫屬中破産カ配當ニ依リテ終結シタルトキハ該訴訟ハ其影響ヲ受クルコトナク從來ノ當事者間ニ之ヲ繼續ス而シテ其訴訟ノ結果届出債權者カ敗訴シタルトキハ其債權者ノ爲メニ留保シ置ケル金額ハ之ヲ他ノ債權者ニ追加配當トシテ配當シ破産者ニ復歸セシムルコトナシ之ニ反シ届出債權者勝訴シタルトキハ其者ニ之ヲ拂渡ス(草案第二百四十六條、第二百四十七條)若シ破産カ強制和議協諧契約若クハ其廢止(停止)ニ依リテ終結シタルトキハ異議ニ關スル訴訟ハ其目的ヲ失フニ至リタルモノナリト雖モ訴訟費用ノ負擔ヲ定ムルカ爲メニ其訴訟ヲ續行ス

第五 債權表ノ更正竝ニ判決ノ效力

異議ニ關スル訴訟カ確定シタルトキハ管財人又ハ破産債權者ノ申立ニ因リテ裁判所ハ債權表ノ更正ヲ爲スコトヲ要ス其更正ヲ適當ト認ムルトキハ裁判所ハ決定ヲ用キルコトナク直チニ之ヲ行フカ故ニ之ニ對シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス然レトモ配當表ニ對シテ異議ヲ述フル場合ニ於テ當事者ハ債權表ノ更正ニ對シテモ亦自ラ異議ヲ述フルコトヲ得(草案第二百四十三條、第二百四十七條)



異議ヲ理由アリトシ又ハ理由ナシトシタル判決カ確定シタルトキハ其判決ハ破産債權者ノ全員ニ對シテ其效力ヲ有ス(草案第二百四十六條)蓋シ破産債權ノ確定ハ破産債權者全員ニ對シテ同一ナラサルヘカラス一人ニ對シテ債權カ肯定セラレ一人ニ對シテ否定セラレ、カ如キハ破産手續ノ性質上許サ、ル所ナリ故ニ異議ヲ理由ナシトシタル判決カ確定シタルトキハ破産債權者ノ全員即チ異議ヲ申立テサリシ者ニ對シテモ亦其效力ヲ有シ其債權ハ確定セラル、ニ至ル然レトモ多數ノ異議ノ存在シタルトキハ其悉皆ノ異議カ判決ニ依リテ確定セラレサルヘカラスアルヤ論ナシ又異議カ理由アリト云フ判決ノ確定シタルトキハ縱令多數ノ異議中唯僅ニ一箇成立シタル場合ト雖モ總債權者ノ利益ノ爲メニ其效力ヲ生シ債權ノ確定ヲ妨クルニ至ルモノトス

又異議ニ關スル訴訟ニ因リ破産財團カ利益ヲ受ケタルトキ例ヘハ異議カ理由アリタルカ爲メニ届出債權者ニ對スル配當額トシテ供託シ置ケル部分カ破産財團ニ戻リ來リタルトキノ如キ又優先權ニ對スル異議カ理由アリタルカ爲メニ普通債權トシテ配當ヲ爲シ爲メニ破産財團カ利益スルニ至リタルトキノ如

キ場合ニ於テハ破産債權者ハ破産財團カ受ケタル利益ノ限度ニ於テ訴訟費用ノ償還ニ付キ財團債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得(草案第五十條)而シテ破産財團ヨリ其償還ヲ爲シタルトキハ勝訴者カ敗訴者ニ對シテ有スル請求權ハ破産財團ニ讓渡スヘキモノトス

又管財人カ異議者トシテ訴訟ヲ爲シ敗訴シタルカ爲メニ支拂フヘキ訴訟費用ハ破産財團ヨリ財團債務トシテ支拂フヘキモノトス(舊商法第三十三條第三號) 又管財人カ勝訴シタル場合ノ訴訟費用請求權ハ財團ノ資産トス

**第六 他ノ官廳ノ管轄ニ屬スル事件**

特別裁判所行政裁判所行政廳又ハ會計検査院ノ管轄ニ屬スル事件及ヒ刑事裁判所ニ於ケル公訴附帶ノ私訴ニ付テハ之ヲ破産裁判所ノ管轄ニ屬セシムルコト能ハスト雖モ其債權ニ對スル異議ノ訴訟ニ付テハ當該各官廳ニ於テ之ヲ決定セシムルモノトス(草案第二百四十九條)

**第十六章 破産ノ終結**

**第一節 配當**



第一 配當ノ種類 配當ニ三種アリ中間配當、最後ノ配當、追加配當是ナリ一般ノ債權調査終了前ニハ管財人ハ毫モ配當ヲ爲スコトヲ得ス是レ然ラスハ債權ハ未タ確定スルモノナク破産財團モ亦其以後始メテ換價スルコトヲ得レハナリ(草案第八十八條、第二百一十項)然ルニ一般ノ債權調査後ニ在リテハ既ニ破産財團ヲ換價シテ現金カ配當ヲ爲スニ足ルヘキ額ニ達シタルトキハ其度毎ニ幾回ニテモ管財人ハ遲滞ナク其配當ヲ爲スコトヲ要ス是レ管財人ノ義務ナリトス如何トナレハ破産債權者ノ爲メニ利益ナレハナリ斯カル配當ヲ中間配當ト稱ス最後ノ配當ハ破産財團ノ換價ヲ總テ終リタル後ニ於テ遲滞ナク之ヲ爲スコトヲ要ス其數一回ナリトス追加配當ハ最後ノ配當アリタル後或原因ニ依リ新ニ配當スヘキ財産アルニ至リタル場合ニ於テ最後ノ配當ノ補充トシテ其都度之ヲ爲スヘキモノトス故ニ其數幾回ナルヲ知ラス現行法ニ於テハ財團ノ換價及ヒ配當ヲ全ク終リタルトキニ於テ破産終結ノ決定ヲ爲スヘキモノト爲シタルカ故ニ理論トシテハ追加配當ヲ爲スヘキ必要ナキカ如シ(舊商法第四百八條)然レトモ若シ破産終結決定後ニ於テ事實上破産財團ニ屬スヘキ財産カ發見セラレ

且配當ヲ爲シ得ル状態ニ在リタルトキハ如何ニスヘキカ斯カル場合ニハ其決定ヲ取消シテ更ニ其配當ヲ爲スヘキカ是レ無用ノ手續ト云ハサルヘカラス故ニ斯カル場合ニハ破産終結ノ決定ハ固ヨリ有效ニ之ヲ存シ事實上追加配當ヲ爲シテ事後ノ補足ヲ爲セハ足ルモノト云ハサルヘカラス

第二 配當ニ關スル通則 管財人カ配當ヲ爲サントスルトキハ監査委員ノ同意若シ監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス現行法ニ依レハ破産主任官ノ認可ヲ必要トス(草案第二百四十六條第一項)管財人ハ配當ノ準備トシテ配當表ヲ作成スルコトヲ要ス之ニ記載スヘキ事項ニ付テハ草案ハ第二百五十二條ニ規定セリ現行法ニハ規定ナキモ略ホ之ト同様ナルヘキハ勿論トス而シテ配當表ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲メ裁判所書記課ニ備置クコトヲ要シ尙ホ其配當ニ加フヘキ債權ノ額及ヒ配當スヘキ金額ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス(草案第二百四十六條第一項)配當ニ加ハルヘキ債權者ハ確定債權ヲ有スル者タルコトハ勿論トス然ルニ異議アル債權ニ付テハ除斥期間内即チ配當ノ公告ノ日ヨリ二週間内ニ其債權ノ



確定ニ關スル訴ノ提起又ハ既ニ繫屬セル訴訟ニ付テハ之カ受繼ヲ爲シタルコトヲ管財人ニ對シテ證明スルコトヲ要ス然ラスンハ配當ヨリ除斥セラル但異義アル債權ニ付キ執行力アル債權名義又ハ終局判決アル場合ニハ右ノ證明ヲ要セスシテ當然配當ニ加入セラル(草案第二百三十八條、第二百四十四條、第二百五十五條)尤モ其配當ヨリ除斥セラル、モ後ノ配當ノ除斥期間内ニ其證明ヲ爲ストキハ前ノ配當ニ於テ受クヘカリシ額ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ配當ヲ受クルコトヲ得故ニ唯其配當ヲ受クルニ時ノ前後アルニ過キスシテ全ク損失ヲ被ムルコトナシ(草案第二百六條)是レ債權ノ一般届出期間後ニ届出テタルカ爲ニ特別期日ヲ定メテ調査ヲ爲シタル債權ニ付テモ同一ナリトス現行法ニ於テハ債權ヲ正當時期ニ届出テス又ハ債權ノ確定セサル債權者ハ以後ノ確定ニ因リテ爲スヘキ財團ノ配當ニノミ加ハルコトヲ得ト云ヒテ債權ヲ正當時期ニ届出テサリシ債權者ハ前ニ配當サレタル額ニ付テハ全然損失ヲ被ムルカ如キ外觀アリト雖モ現行法ノ精神ニ於テモ優先權者ノ外ハ平等ノ割合ヲ以テ財團ヨリ配當ヲ受クヘキモノナルカ故ニ遅クテ届出テタル債權者ト雖モ他ノ債權者ニ比シテ損失ヲ被ム

ルヘキモノニアラス故ニ後ノ配當ヲ爲スニ先チテ前ノ配當ニ於テ受クヘカリシ額ニ付テ遅クテ届出テタル債權者ノ殘額中ヨリ配當ヲ爲スヘキモノトス(舊商法第四百五條第一項)

配當表ニ對シテハ除斥期間經過ノ後一週間内ニ限り現行法ニ依レハ其公告ノ日ヨリ起算シ十四日内ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得(草案第二百五十七條、舊商法第四百六條)異議ヲ申立テ得ル者ハ配當表ノ内容ニ對シテ利害關係ヲ有スル者即破産債權者ニ限ル財團債權者ハ其權利ナシ何トナレハ配當表ニ依ラス優先的ニ辨濟ヲ受クヘキモノナレハナリ破産者モ亦此權利ナシ破産財團ノ處分權ハ管財人ニ專屬シ管財人能ク之ヲ代表スレハナリ而シテ異議ニ關スル訴訟ハ其終結ヲ速カニスル爲ニ通常訴訟ニ依ラス單ニ破産裁判所ニ申立テ、之ヲ爲スヘキモノトナセリ即チ異議ハ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得裁判所ハ口頭辯論ヲ經ルト否ト又書面又ハ口頭ニ依リテ當事者ノ意見ヲ徵スルト否トハ其自由ノ判斷ニ依リテ之ヲ決ス而シテ裁判ハ決定ナリトス異議申立ヲ却下シタル決定ハ異議者其相手方竝ニ管財人ニ職權ニ因リ送達ヲ爲スコトヲ要シ之



ニ對シテ即時抗告ニ因リ不服ヲ申立ツルコトヲ得(草案第百七條、第百九條)又異議ヲ理由アリトシ配當表ノ更正ヲ命スル決定ヲ爲シタルトキハ總テノ利害關係人ニ送達スル代リニ之ヲ公告スルコトヲ要ス是レ手續ヲ簡ニスル爲メト即時抗告期間ノ算定ヲ一樣ニセシメナリ(草案第百七條)

配當表ニ對スル異議申立期間ヲ經過シタルトキハ管財人ハ遲滯ナク配當率ヲ定メ配當ニ加入スヘキ各債權者ニ對シ其通知ヲ發スルコトヲ要ス配當率ヲ定ムルニハ監査委員ノ同意若シ監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(草案第百五十八條、第百六十條)管財人カ配當率ヲ定ムルニハ先キニ配當スヘキ金額トシテ公告シタル金額ノ中ニ就テ適當ト認ムル範圍内ニ於テ過不足ナキヲ期シテ之ヲ爲スコトヲ要ス(草案第百五十四條)固ヨリ其額以上ニ出ツルコトハ之ヲ許サル、モ公告シタル金額ヲ悉皆當該配當期ニ於テ配當スルコトヲ要セサルナリ又場合ニ依リテハ其公告後財團債權等カ急ニ知レ來リタルカ爲メニ公告シタル配當金額カ減少シ來ルコトナキヲ保セス是レ亦固ヨリ妨ケサル所ナリトス而シテ配當表ニ對シテ異議アリタル場合ニ於テ其異議ノ落著ヲ待テ配當率ヲ定ムルハ

至當ノ順序ナリト雖モ草案ニ於テハ配當ノ遲延センコトヲ恐レ異議申立期間經過スレハ遲滯ナク配當率ヲ定メシムルモノトナセリ是レ其異議ノ經果如何ハ畢竟後ノ配當ニ於テ其整理ヲ付ケシメントスル法意ナルヘシ故ニ管財人ハ異議カ理由アリテ配當表カ更正セラルヘク見ユルトキハ配當ヲ爲スニ際シ能ク注意ヲ用キ後日ノ救濟手段ヲ講シ置クコト肝要ナルヘシ然ルニ現行法ニ於テハ配當案ニ對シテ異議ヲ申立ツル者ナキトキ又ハ異議ノ落著シタルトキ配當ノ實施ヲ爲スヘキモノトシタルカ故ニ斯カル懸念ヲ生スルノ虞ナシ(舊商法第十七條)又配當率ハ財團債權者又ハ優先權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ハ悉ク平等ノ割合ナルヘキハ勿論トス(草案第百二十五條、第百三十八條、第三十項)

配當ノ實施ハ管財人之ヲ爲ス實施ハ配當率ノ通知ヲ發シタルトキヨリ始マル債權者ハ此時ヨリ管財人ニ對シテ配當金ノ請求權ヲ生ス管財人カ理由ナク配當ヲ遲延スルトキハ自ラ責任ヲ負フ(草案第百六十一條)又債權者カ配當金ヲ受取ルヘキ時期ニ受取ラサルトキハ却テ遲滯ノ責ニ任ス蓋シ配當金ハ債權者ヨリ進ンテ受取ノ手段ヲ取ルヘキモノトス其拂渡地ハ破産財團管理地ナリトス



管財人ハ配當ヲ實施スルニ付テハ後日ノ紛争ヲ絶ツ爲メニ債權ノ證書ニ配當シタル金額ヲ記入スルコトヲ要ス(草案第二百六十二條)現行法ニ依レハ管財人ハ各債權者ヲシテ其債務證書ヲ提出セシメ之ニ毎回ノ支拂額ヲ記入シテ支拂ヲ爲ス若シ債務證書ノ提出ヲ爲スコト能ハサルトキハ破産主任官ノ許可ヲ得テ債權者ニ依リ支拂ヲ爲スコトヲ得又孰レノ場合ニ於テモ債權者ハ配當案ニ受取書ヲ記載スルコトヲ要ス是レ皆後日ノ證據ノ爲メナリ(舊商法第四百十七條末段)

又配當ヲ受クヘキ債權者中解除條件附債權者ハ相當ノ擔保ヲ供スルニアラサレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス(草案第二百五十九條)是レ條件成就セシ場合ニ於ケル配當額返還ノ豫備トナサンカ爲ナリ又異議アル債權ニシテ訴訟ノ繫屬セルモノ等ニ付テハ管財人ハ裁判所ノ命スル所ニ從ヒ之ヲ寄託スルコトヲ要ス(草案第二百四十四條)現行法ニ於テモ異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ル債權及ヒ届出竝ニ調査ノ爲メ別段ノ期間ヲ定メラレタル在外國債權者ノ債權ニ付テハ以前ノ配當ニ於テ其債權ニ歸スル割前ヲ留存ス(舊商法第四百二十九條末段)斯ノ如ク中間配當ニ於テ寄託シタル金額ハ尙ホ破産財團ニ屬スルカ故ニ之ヨリ生セル利息モ亦破産財團ニ屬スト云

ハサルヘカラス反之最後ノ配當額トシテ割り當テタル金額ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ管財人カ當該債權者ノ利益ノ爲メニ其危険ト費用トニ於テ供託スルモノナルカ故ニ之ヨリ生セル利息ハ當該債權者ニ歸屬スルモノト云ハサルヘカラ(草案第二百四十七條)

又除斥期間内ニ強制和議ノ提供アリ爲メニ配當ノ中止ヲ爲スコトアリ又其提供ノ否決ニ因リ配當ノ手續ヲ續行ス(草案第二百六十一條)

**第三 最後ノ配當手續** 管財人カ最後ノ配當ヲ爲サントスルトキハ縦令監査委員ノ同意アリタルトキト雖モ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(草案第二百六十五條)現行法ニ於テハ各配當總テ破産主任官ノ認可ヲ必要トス蓋シ最後ノ配當ハ破産ノ終結ヲ來スモノニシテ爾後破産債權者タルコトヲ得ヘキ者ヲシテ債權ヲ届出テ、破産手續ニ參加スルノ權利ヲ失ハシムルモノナルカ故ニ唯リ在來ノ債權者ノ意見ノミニ委スルコトヲ得ス故ニ裁判所ハ公益ニ鑑ミテ其時期ヲ決定スルモノトス又管財人カ最後ノ配當ヲ爲サントノ申立ヲ爲スヘキ時期ハ破産財團ノ全部カ其換價ヲ終ヘタル時トス即チ現行法ニ於テモ財團ノ換價及ヒ配



當ヲ全ク終リタルトキト云ヘリ(舊商法第千四十八條前段)然レトモ草案ニ於テハ例外トシ  
 テ一ニノ換價シ能ハサリシ財産アルコトヲ妨ケス例ヘハ負擔附財産ノ如キ又  
 ハ無資力者ニ對スル債權ノ如キハ之ヲ換價セントスルモ遂ニ換價スルコト能  
 ハサル場合之有ルヘシ仍テ草案ハ斯カル財産ニ付テハ債權者集會ニ於テ其最  
 後ノ處分ヲ如何ニ爲スヘキヤニ付テノ決議ヲ爲スヘキモノトナセリ(草案第百七十六  
 條)仍テ債權者集會ニ於テハ或ハ斯カル財産ハ直チニ破産者ノ自由ノ處分ニ委  
 スルナリ或ハ債權者中斯カル財産ヲ其配當ノ一部ニ對スル代物辨濟トシテ引  
 受クル者アレハ直チニ其者ニ委スルナリ適當ナル處分方法ヲ決議ス而シテ其  
 決議ニ付テハ裁判所其執行ノ當否ヲ決定ス(草案第百三十七條舊)  
 最後ノ配當ニ付テハ除斥期間ハ其配當ノ公告ノ日ヨリ一个月トス(草案第百二十六條)  
 現行法ニ於テハ中間配當ノ場合ト均シク十四日ナリトス(舊商法第千四十六條第二項)而シテ  
 草案ニ於テモ最後ノ配當ニ付テハ現行法ト同シク配當ニ對スル異議落著後ニ  
 於テ始メテ管財人ハ各債權者ニ對シ遲滯ナク配當額ノ通知ヲ發スヘキモノト  
 ナセリ(草案第百六十七條)中間配當ニ在リテハ配當率ヲ通知スルモ最後ノ配當ニ在リ

テハ配當額ヲ通知シ配當ノ實施ハ其通知ヨリ始マル故ニ配當額ノ通知ヲ發ス  
 ルマテニ新ニ配當ニ充ツヘキ財産アルニ至リタルトキハ管財人ハ直チニ配當  
 表ヲ更正スルコトヲ要ス(草案第百七十三條)  
 最後ノ配當ノ除斥期間ヲ經過スルマテニ條件附等ノ爲メ不確定ナリシ債權カ  
 未タ確定ノ狀態ニ至ラサルトキハ草案ハ概シテ打切り主義ヲ取り其始末方ニ  
 關スル規定ヲ設ケタリ草案第百六十八條乃至第百七十二條ノ規定是ナリ  
 此他異議アル債權ニ付キ中間配當ニ於テ寄託シタル配當額最後ノ配當ニ於テ  
 異議ノ未タ落著セサル債權ニ對スル配當額債權者カ受取ラサル配當額等ニ付  
 テハ管財人ハ已ムヲ得ス裁判所ノ命スル所ニ從ヒ之ヲ供託シ置クコトヲ要ス  
(草案第百七十四條)現行法ニ於テハ異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ル債權及ヒ届出並ニ調査  
 ノ爲メ特別期間ヲ定メラレタル在外國債權者ノ債權ニ付テハ中間配當額ハ之  
 ヲ留存シ置クトナシタルモ(舊商法第千二十九條)最後ノ配當ヲ爲スニ當リテハ其異議落  
 著後ニ之ヲ爲スモノトシタルカ故ニ異議アル債權等ノ爲メニ管財人ハ之ヲ供  
 託シ置クノ必要ナカルヘシ(舊商法第千四十八條前段)然レトモ債權者カ受取ラサル配當額



ニ付テハ管財人ハ如何トモ爲シ難シ現行法ノ下ニ於テモ民法ノ規定ニ從ヒ同シク供託ヲ爲シテ其責ヲ免ル、ノ外其詮ナカルヘシ  
管財人カ最後ノ配當ヲ爲シタルトキハ計算ノ報告ヲ爲スカ爲メ遲滯ナク債權者集會ノ申立ヲ爲シ該債權者集會カ終結シタルトキハ裁判所ハ破産終結ノ決定ヲ爲シ且其決定ノ要領及ヒ原因ヲ公告スルコトヲ要ス(草案第二百七十七條 舊商法第千四十八條)

第四 追加配當手續 最後ノ配當額ノ通知ヲ發シタル後新ニ配當ニ充ツヘキ財産アルニ至リタルトキ例ヘハ異議アル債權ニ對スル配當額トシテ供託シ置ケル部分カ異議ノ理由アリト確定シタルカ爲メニ他ノ債權者ヘ配當シ得ルニ至リタルトキハ管財人ハ追加配當ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ之ヲ爲スニハ裁判所ノ許可ヲ受クルコトヲ要シ其許可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク配當スヘキ金額ハ公告シ且各債權者ニ對シ配當額ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス而シテ追加配當ハ其性質寧ロ最後ノ配當ノ補充ト見ルヘキモノナルカ故ニ配當表ハ最後ノ配當ニ付キ作りタルモノニ依リ新ニ之ヲ作ラス尙ホ追加配當ヲ爲シタルトキ

ハ管財人ハ遲滯ナク計算報告書ヲ作り之ヲ裁判所ニ提出シテ其認可ヲ申請スルコトヲ要ス(草案第二百七十八條 乃至第二百八十八條)

第五 配當ニ因ル破産終結ノ結果 破産者ハ爾後財産ノ管理及ヒ處分ノ權利ヲ回復ス故ニ從來破産財團ニ屬シタル財産ニシテ餘剩アルトキハ破産者ハ固ヨリ之ニ對スル處分權ヲ有スルニ至ル故ニ縱令追加配當ニ屬スヘキ財産ト雖モ破産者之ヲ處分シ終レルトキハ如何トモスヘカラス然レトモ異議アル財産ニ對スル配當額トシテ供託シタル部分ニ付テハ破産者之ヲ如何トモスヘカラス蓋シ斯カル配當額ハ其債權者ノ計算ニ於テ供託シタルモノナレハナリ  
破産管財人監査委員及ヒ債權者集會ノ職務ハ皆終了ス唯管財人ハ異議アル債權ニ付テノ訴訟ヲ繼續スヘク又追加配當ヲ爲スヘキ職務アルハ勿論トス  
破産債權者ハ破産手續ニ於テ全部辨濟ヲ得ルコト能ハサリシ殘額ニ付テハ債權表ニ基キテ破産者ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得(舊商法第千四十九條 但草案ニ於テハ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘタル債權ニ付テハ更ニ破産者ニ對スル債權確定ノ債務名義ヲ必要トスル旨ヲ規定シタリ)



## 第二節 強制和議(協諧契約)

## 第一 強制和議ノ必要並ニ其性質

配當ニ因ル破産終結ノ場合ハ既ニ述ヘタルカ如ク總テノ破産財團ヲ換價シ金錢トシテ各債權者ニ配當スルモノナルカ故ニ多クノ時間ト費用トヲ要シ其割合ニ債權者ニ對シテ多クノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス又破産者ニ在リテハ破産手續終結後ニ於テ債權者ニ満足ヲ與フルコト能ハサリシ殘額ニ付テハ破産手續終結後ニ於テモ永久ニ其責任ヲ負フ然ルニ強制和議ニ在リテハ破産財團ヲ換價セスシテ破産手續ヲ終結セシムルモノナルカ故ニ時間ト費用トヲ節約シ得ルノミナラス破産者ニ在テハ強制和議ノ條件ニ從ヒ債務ノ一部ノ免除ヲ受ケ又ハ辨濟期ニ猶豫ヲ與ヘラル、モノニシテ常ニ其利益アリ又破産財團ノ管理及ヒ處分ノ權利ヲ速ニ回復シテ事業ヲ再興スルノ機會ヲ作ルコトヲ得隨テ親戚故舊ノ者破産者ノ爲メニ出捐ヲ爲シテ之ヲ援クルヲ常トス故ニ債權者ノ爲メヨリ云フモ強制和議ノ場合ハ配當ニ因ル破産終結ノ場合ヨリモ比較的多額ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得故ニ債權者ノ爲メヨリ云フモ利益アリ又破産財團ヲ箇々ニ

賣却スルトキハ多クハ十分ノ效用ヲ爲サス然ルニ之ヲ換價セス從來ノ如ク繼續シテ一團トシテ營業等ニ使用スルトキハ其效用ヲ發揮シ得ヘシ故ニ強制和議ハ社會經濟ヨリ云フモ利益アル方法ト云フヘシ

右ノ如キ利益アル方法ニ因リテ破産ヲ終結セシムルコトハ社會上望マシキ所ナルモ破産者ノ提供シタル條件ニ總債權者カ一致スレハ可ナルモ一致スルコトハ到底困難ナルヘキカ故ニ已ムコトヲ得ス多數者ノ議決ニ依リテ少數者ヲ拘束セシムルノ外ナシ其拘束スルハ即チ法律ノ力ニ依ル故ニ強制和議ノ性質ニ付テハ種々ノ説明アルモ強制和議ハ破産手續ナル訴訟事件ニ於テ破産者ト債權者トノ間ニ成立シタル訴訟上ノ和解ニシテ其破産手續ニ參加セサル者又ハ參加スルモ反對意見ヲ有シタル者ニ對シテ拘束力アルハ全ク法律ノ力ニ是レ因ルト解スルヲ至當トス

## 第二 強制和議ノ成立

強制和議ノ成立スルニハ先ツ破産者ヨリ之ニ對スル内容ノ提供ヲ爲スコトヲ要シ之ニ對シテ債權者集會ニ於ケル一定ノ多數アル議決アルコトヲ要シ最後



ニ裁判所ノ認可ヲ必要トス

一 破産者ノ提供 強制和議ハ獨リ破産者ヨリ之カ提供ヲ爲スコトヲ得破産管財人破産債權者等ヨリ之カ提供ヲ爲スコトヲ得ス又各種ノ法人ニ在リテハ其代表者ヨリ之カ提供ヲ爲スヘク又相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ハ其相續人ヨリ之ヲ爲スヘク相續人數人アルトキハ其一致ニ依ルコトヲ要ス(草案第二百八十七條第二項)  
 提供ノ時期ニ付テハ草案ハ何時ニテモ其提供ヲ爲スコトヲ得ト規定セリ(草案第二百八十六條)然レトモ最後ノ配當ノ許可アリタル後ハ強制和議ヲ決議スルコトヲ得ストナシタルカ故ニ其以後ハ提供ヲ爲ス可ラサルコト固ヨリ明カナリ(草案第九十五條)現行法ニ於テハ提供ハ原則トシテ第一ノ債權者集會ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトシタリ是レ第一ノ債權者集會ハ一般ノ債權調査會ヨリ四週日後ニ之ヲ爲スヘキモノニシテ債權調査ノ結了シタル後ニアラスンハ債權額及ヒ員數等モ確定セス又餘リ後レテ提供スルトキハ破産手續ノ延滞ヲ來ス仍テ第一ノ債權者集會ニ提供シテ其決議ヲ乞フモノトシタルナリ尤モ

提供其物ハ第一ノ集會ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルモ其準備トシテ協諾契約ノ申立書ヲ少クトモ第一ノ集會ノ二十日前ニ裁判所ニ差出シ裁判所ハ之ヲ公衆ノ閱覽ニ供シ且其旨ヲ公告シ置クヘキモノトス故ニ申立書ノ差出ハ畢竟準備ノ爲メニシテ第一ノ集會ニ於ケル申述即チ提供トナルモノトス故ニ提供ノ時期ハ集會ノ日ナリトス右ノ如ク原則トシテ第一ノ集會ニ於テ提供スルモ例外トシテ十分ノ理由アルトキ即チ協諾契約ノ成立セラレ、十分ノ見込アルトキハ以後ノ集會ニ於テモ之ヲ提供シ得ルモノトシタルナリ(商法第九十八條)提供ノ回数ハ現行法ハ唯一回ニ限ルモノトセリ是レ破産手續ノ延滞ヲ防ク爲メト若シ然ラスンハ破産者カ負擔ノ輕キ提供ヲ爲シテ猥リニ試驗的ノ提供ヲ爲スニ至ルヘキヲ恐レタルトニ依ルモノナリ草案ニ於テハ理論上ハ提供ノ度數ニ制限ヲ設ケサルカ如クナルモ同第二百九十九條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ管財人又ハ監查委員ノ意見ヲ聽キ其提供ヲ棄却スヘキモノトシタリ  
 提供ノ内容トシテハ先ツ辨濟ノ方法即チ辨濟シ得ラル、額換言スレハ債務



ノ免除ヲ乞フ割合又ハ辨濟ノ猶豫期間等ヲ指示スルコトヲ要シ又擔保ヲ供  
 セントスルトキハ其種類ヲ示シ之ヲ裁判所ニ申出ルコトヲ要ス(草案第二百  
 九十九條)  
 現行法ニ於テハ内容ニ付テハ何等ノ規定ナキモ理論上固ヨリ斯ノ如クナラ  
 サルヘカラス  
 右ノ提供アルトキハ裁判所ハ先ツ之ニ對スル調査ヲ爲サルヘカラス草案  
 ニ依レハ調査ノ結果其提供カ數回目ノモノナルトキハ第二百九十條ヲ適用  
 シ棄却スヘキモノハ之ヲ棄却シ棄却セサルモノハ監査委員ヲシテ之ニ關ス  
 ル意見ヲ報告セシメ其報告書竝ニ提供ニ關スル書類ハ利害關係人ノ閱覽ニ  
 供スル爲メ之ヲ裁判所書記課ニ備ヘ置クコトヲ要ス(草案第二百九十一條)現行  
 法ニテハ法律上ノ義務ヲ履行セス又ハ有罪破産ノ判決ヲ受ケ又ハ其審問中  
 ニ在ル者ハ協諧契約ノ提供ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ破産主任官ハ斯カル  
 者ノ提供ハ之ヲ退クヘシ又提供ハ凡テ破産主任官ノ認可ヲ受クヘキモノト  
 シタルカ故ニ此他要件ノ具備スルヤ否ヤ等其調査ヲ受クヘキハ勿論トス而  
 シテ其認可アリタル後始メテ提供ヲ爲スコトヲ得而シテ其申立書ハ之ヲ裁

判所書記課ニ備ヘテ公衆ノ閱覽ニ供シ且其旨ヲ公告スルモノトス(舊商法第  
 八十八條)

二 債權者集會ノ決議 強制和議ノ決議ノ爲メニスル債權者集會ノ期日ハ一  
 个月以内ニ於テ裁判所之ヲ定メテ公告ス又其期日ハ申立ニ依リ債權調査ノ  
 一般期日ト併合スルコトヲ得(草案第二百九十四條)現行法ニ於テハ協諧契約ノ  
 決議ハ第一ノ債權者集會ニ於テ之ヲ爲スヲ通例トス而シテ之カ公告ヲ爲ス  
 コトヲ要スルコトハ既ニ述ヘタルカ如シ  
 決議ノ時期ニ付テハ草案ニハ一般債權調査ノ終了前又ハ最後ノ配當ノ許可  
 アリタル後ハ之ヲ決議スルコトヲ得ストノ制限ヲ置ケリ(草案第二百九十五條)是レ固  
 ヲリ當然ノ事ニシテ前段ノ場合ニ在リテハ債權未タ確定セス後段ノ場合ニ  
 在リテハ配當ニ依リテ破産手續將サニ終結セントスル時機ニ在レハナリ又  
 草案ニ依レハ詐僞破産ノ公訴ノ提起アリタルトキハ債權者集會ニ於テ強制  
 和議ノ決議ヲ延期スルコトヲ得トナセリ是レ詐僞破産ノ公訴ノ繫屬スルト  
 キ又ハ之ニ付キ有罪ノ判決カ確定シタルトキハ強制和議ハ不認可ト決定ス



ハキモノナレハナリ(草案第三百九十九條)然ルニ現行法ニ於テハ唯リ詐偽破産ノ場合ノミナラス過怠破産ノ場合ニ於テモ其審問中ニ在ル場合即チ豫審若クハ公判中ニ在ル間ハ協諧契約ノ提供ヲ爲スコトヲ得サルモノトシ又縱令協諧契約ノ成立アルモ審問中ハ其執行ヲ停止ス(舊商法第一千三百三十八條第一項)強制和議ノ條件ハ各債權者ニ付キ平等ナルコトヲ要ス但不利益ヲ受クル者カ同意ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス(草案第九十七條)是レ固ヨリ當然ノ事トス若シ然ラスハ少數反對意見者又ハ破産手續ニ参加セサル者ノ利益ヲ害スルニ至ルヘケレハナリ現行法ニ於テモ不公平ナル條件ノ決議ハ之ヲ認可セサルヘキカ故ニ其結果同一ナリトス(舊商法第一千四十一條第二號)又其條件ハ強制和議ノ決議アルマテハ破産債權者ニ利益ナル場合ニ限り之ヲ變更スルコトヲ得(草案第四百九十九條)現行法ニ於テモ第一ノ債權者集會ニ於ケル提供ノ條件カ最初ノ申立書ト異ナリタル場合ニハ唯債權者ニ利益ナル場合ニ限り其變更ヲ許スモノト云サルヘカラス然ラスハ闕席債權者ノ利益ヲ害スレハナリ

強制和議ヲ可決スルニハ破産債權者ノ過半数ニシテ其債權者カ破産債權者

ニ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ同意アルコトヲ要ス(草案第九十九條)通常ノ債權者集會ノ決議ニ比シテ斯クノ如キ特別多數ヲ必要トナシタル所以ノモトニ該決議ノ結果カ極メテ重要ニシテ少數ノ反對意見ヲ有シタル者ハ勿論破産手續ニ参加セサル債權者ヲモ拘束スルニ至ルヲ以テナリ而シテ草案ノ規定ニ依レハ通常ノ債權者集會ノ決議ハ出席破産債權者ノ過半数ニシテ其債權カ出席破産債權者ノ總債權ノ半額ニ超ユル者ノ同意アルコトヲ要ス(草案第四百七條)然ルニ強制和議ノ可決ニ付テハ單ニ破産債權者ト云ヒテ其出席タルト闕席タルトヲ區別セサルニ由リテ之ヲ觀レハ單ニ出席セル者ノミヲ算スヘキモノニアラサルヲ知ルニ足ル即チ頭數ヨリ云ヘハ債權者集會ニ出席シテ評決ニ與リ得ル資格アル者ノ過半数ニシテ債權ノ額ヨリ云フモ其總債權額ノ四分ノ三以上ノ賛成アルコトヲ要ス斯ノ如ク頭數並ニ債權ノ額ノ雙方ニ付テ闕席者ヲモ包含セシメテ斯カル多數ヲ要ストナスハ頗ル嚴密ナル議決方法ト云ハサルヘカラス獨逸ニ於テハ頭數ニ付テハ出席員ノ過半数トナシ債權ノ額ニ付テハ闕席者ノ分モ加算シテ四分ノ三ヲ得ヘキモノトナセリ

破産法 破産ノ終結(強制和議(協諧契約))



(獨破產法第百八十二條)現行法ニ於テモ獨逸ト同シク頭數ニ付テハ出席者ノ過半數ヲ得レハ足レリトシ唯債權額ニ付テハ闕席者ノ分ヲモ合算シタル總債權額ノ四分ノ三以上ヲ得ルコトヲ必要トシタリ(舊商法第一千九百九十九條第一項)頭數並ニ債權額雙方ニ於テ多數ヲ必要トスル所以ハ他ナシ少額多數ノ債權者若クハ多額少數ノ債權者カ該決議ニ於テ專斷ナル決議ヲ爲スニ至ランコトヲ豫防センカ爲メナリ而シテ頭數ニ付テハ一人ニシテ多數ノ債權ヲ有スルトキハ一員ニ算スヘク又一人カ多數ノ債權者ヲ代理スルトキハ多人數トシテ算スヘシ而シテ草案ニ於テハ期日ニ於テ右ノ如キ可決スヘキ多數ヲ得ルコト能ハサリシトキト雖モ草案第三百條列舉ノ一號及ヒ二號ノ場合ニ於テハ和議提供者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ一回ニ限り續行期日ヲ定メテ之ヲ言渡スコトヲ要スルモノトナセリ然ルニ現行法ニ於テハ僅カニ一回ニ限り協議契約ノ提供ヲ爲シ得ルモノトシ又斯カル續行期日ヲ定ムルコトノ規定ナシ

三 裁判所ノ認可 強制和議ノ提供カ債權者集會ニ於テ否決サルトキハ破產手續ハ續行セラル若シ法定ノ多數ヲ得テ可決セラレタルトキハ裁判所ノ

認可ヲ得テ成立ス(草案第三百一十條 舊商法第四百一十條)

裁判所ハ債權者集會ニ於テ可決セラレタル強制和議ニ付テ能ク法定要件ヲ具ヘタルヤ否ヤ等ヲ調査シ其認否ニ付テ決定ヲ爲ス當事者ハ其認否ニ付テ意見ヲ述フルコトヲ得(草案第三百一十條)然ルニ法律上不認可ノ決定ヲ與フヘキ場合ニ付テハ草案第三百三條ニ之ヲ列舉セリ

現行法ニ於テハ協議契約ノ債權者集會ニ於テ可決セラレタルトキハ管財人及ヒ議決權アル債權者又後ニ債權ノ確定シタル債權者ヨリ該契約ニ對シテ十日間内ニ理由ヲ附シテ異議ヲ裁判所ニ申立テ得ルモノトシ其期間滿了後直チニ裁判所ハ破產主任官ノ演述ヲ聽キタル後協議契約ノ認可又ハ棄却ニ付テノ決定ヲ爲スモノトス(舊商法第一千三百九十九條)而シテ法律上棄却ノ決定ヲ與フヘキ場合ハ同第四百一十一條ニ列舉セリ

裁判所ノ強制和議認可若クハ不認可ノ決定ニ對シテハ當事者ヨリ即時抗告ニ依リテ不服申立ヲ爲シ得ルハ勿論トス(草案第三百九十九條 舊商法第四百一十條 末段)

第三 強制和議ノ效力

破產法 破產ノ終結 強制和議(協議契約)



破産管財人ハ強制和議認可ノ決定確定シタルトキハ財團債權者及ヒ確定債權ヲ有スル一般ノ先取特權者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス蓋シ此等ノ者ハ強制和議ノ效力ヲ受クヘキ者ニアラスシテ財團ヨリ先ツ辨濟ヲ爲スヲ當然トスレハナリ但異議アル財團債權及ヒ確定セスシテ疎明アリタルニ止マル一般ノ先取特權者ノ債權ニ付テハ供託ヲ爲スノ外ナシ(草案第三百十條)此他管財人ハ最後ノ配當ノ許可アリタル場合ト均シク計算ノ報告ヲ爲ス爲メ遲滯ナク債權者集會招集ノ申立ヲ爲スコトヲ要シ該集會ノ終結シタルトキハ裁判所ハ破産終結ノ決定ヲ爲シ且其決定ノ要領及ヒ原因ヲ公告スルコトヲ要ス(草案第三百十二條)現行法ニ於テモ管財人カ直チニ其執務ヲ罷メ且其執務ニ付キ計算ヲ爲スヘシト規定セリ(舊商法第一千項)

破産者ハ破産終結ノ決定ノ公告後破産財團ノ管理及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ回復ス是レ固ヨリ當然ニシテ破産手續終結後ハ破産財團ナルモノ存セサレハナリ但強制和議ニ於テ破産者ニ或種類ノ財産ニ付テ自由ノ處分ヲ許サ、ルカ如キ制限ヲ加ヘタルトキハ其制限ニ從フヘキハ勿論トス是レ畢竟破産債權者カ其

自衛ノ爲メ留保シタル權利ナルヘケレハナリ(草案第四百十三條第一項)

破産債權者ニ對シテハ強制和議ハ其全員ノ利益ノ爲メニモ亦不利益ノ爲メニモ其效力ヲ有ス(草案第三百十項)茲ニ所謂破産債權者ノ全員トハ破産手續ニ參加シタルト否ト又強制和議ノ決議ノ爲メ出席シタルト否ト又其出席シタルモ議決ニ賛成シタルト否トヲ問ハサルナリ蓋シ強制和議其物カ配當ニ依ラスシテ破産手續ノ終結ヲ來スコトヲ目的トスルモノナルカ故ニ若シ少數反對意見者カ獨立シテ破産手續ヲ遂行シ得ヘクンハ強制和議ノ目的ハ到底之ヲ達スルコト能ハサレハナリ故ニ法律ハ公益上ノ理由ニ基キ統一のニ破産手續ノ終結アルモノトシ又破産手續ニ參加セサル者ニ對シテモ同一ニ其效力ノ及フモノトシタルナリ然ラスンハ是レ亦獨立の破産開始ヲ申請スルニ至ルヘケレハナリ而シテ強制和議ハ破産債權者カ破産者ノ保證人竝ニ他ノ共同債務者ニ對シテ有スル權利及ヒ第三者カ破産者ノ爲メニ供シタル擔保ニ影響ヲ及ボササルハ勿論トス(草案第三百十項)

而シテ強制和議ノ確定ハ債權其物ノ確定ト異ナリ唯確定シタル債權ニ對スル



辨濟ノ方法等ヲ決定スルニ過キス故ニ債權ノ確定ハ別ニ其方法ヲ求メサルヘ  
 カラス即チ破産債權ノ確定ハ債權調査ノ期日ニ於テ何人モ異議ヲ述ヘサリシ  
 トキ確定ス而シテ破産者ノ異議ニ付テハ草案ハ破産手續外ニ於テ其效力ヲ認  
 ムルカ故ニ破産者カ異議ヲ述ヘタル債權ニ付テハ破産者ニ對スル確定ノ方法  
 ヲ講セサルヘカラス唯破産者ノ異議ヲ述ヘサリシ場合ニ限り破産者並ニ檢索  
 ノ利益ナキ保證人ニ對シ債權表ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得(草案第三  
 百十八條)  
 又現行法ニ依レハ協諧契約ノ履行ハ破産主任官ノ監督ヲ以テ之ヲ爲スモノト  
 ス(舊商法第三千四  
 十三條第三項)

第四 強制和議ノ取消及破産手續ノ續行

破産者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタルトキハ強制和議ノ可決ニ必要ナル多數ノ  
 破産債權者ノ申立ニ因リ又詐僞破産ニ付キ有罪ノ判決カ確定シタルトキハ破  
 産債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得(草案第三  
 百二十三條)而シテ強制和議ノ取消アリタルトキハ破産手續ヲ續行ス其手續ハ草  
 案第三百二十四條以下ニ規定スル所ナリ

現行法ニ於テハ協諧契約成立後破産者カ有罪破産ノ判決ヲ受ケタルトキハ協  
 諧契約ハ當然消滅スルモノトシタリ又協諧契約カ詐僞其他不正ノ方法ヲ以テ  
 成立シタルトキハ縱令認可アリタル後ト雖モ尙ホ之ニ對シテ異議ヲ申立テハ  
 之ヲ取消スコトヲ得ルモノトナセリ(舊商法第三  
 百二十三條)斯ノ如ク協諧契約カ當然消滅  
 シ若クハ取消サレ又ハ不履行ノ爲メ解除セラレタルトキハ破産手續ヲ再施シ  
 直チニ財團ノ換價及ヒ配當ヲ爲シテ終局ニ至ラシム即チ破産手續ヲ續行スル  
 モノトス但再施マテノ間ニ新ニ債權ヲ得タル者モ破産債權者トシテ該手續ニ  
 參加スルコトヲ得蓋シ該債權者ハ債務者ヲ普通ノ人ト信シテ取引ヲ爲シ其現  
 在ノ財産ニ信用ヲ措キテ貸借ヲ爲シタルニ突然破産手續カ再施サレテ自己ノ  
 擔保視シタル財産ハ皆舊破産債權者ノ辨濟資金トシテ取去ラルハトキハ該債  
 權者ノ迷惑ハ察スルニ餘リアリ又延ヒテ社會ノ取引ノ安全ヲ害スルモノト云  
 フヘシ仍テ該債權者ヲシテ破産手續ニ參加セシム  
 又不履行ノ爲メ破産手續カ再施セラレタル場合ト雖モ協諧契約ノ爲メ立テタ  
 ル保證人ハ其義務ヲ免レサルハ勿論トス是レ其自ラ負ヒタル義務ナレハナリ

破産法 破産ノ終結 強制和議(協諧契約)



### 第三節 破産ノ廢止

草案ニ規定シタル破産廢止ノ場合ニ二種アリ一ハ届出ヲ爲シタル總破産債權者ノ破産手續續行ヲ抛棄シタル場合ニシテ他ハ破産宣告後破産財團カ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メラル、ニ至リタル場合はナリ蓋シ破産ハ破産債權者ノ爲メニスル一般的強制執行ナルカ故ニ其手續ニ参加シタル全員カ同意シテ手續續行ノ權利ヲ抛棄シタルトキハ爾後ノ續行ヲ廢止スヘキヲ當然トシ又破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサルトキハ是レ亦其續行ノ目的ヲ失スレハナリ

#### 第一 破産手續續行ノ抛棄ニ因ル破産ノ廢止

一 要件 要件トシテハ先ツ破産者ノ申立アルコトヲ要ス破産管財人、破産債權者ハ其申立ヲ爲スコトヲ得ス裁判所ハ又職權ニ因リテ之カ決定ヲ爲スコトヲ得ス而シテ被産者ノ申立時期ハ債權届出ノ期間經過ノ後ナルトキハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得尤モ配當又ハ強制和議ニ依リテ破産ノ終結セザ

ル前タルコトヲ要スルハ勿論トス又法人若クハ相續財産ノ破産ノ場合ニ在リテハ其代表者若クハ相續人ヨリ其申立ヲ爲ス(草案第三百三十四條第一項)次ニ届出ヲ爲シタル總破産債權者ノ同意ヲ必要トス其同意ノ意思表示ハ一方的訴訟行爲ニシテ契約ニアラス故ニ裁判所ニ對シテ書面若クハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得破産者ニ對シテ爲シタル場合ハ書面ニ依リテ破産者之ヲ證明スルコトヲ要ス是レ多クハ裁判外ノ和解等ニ依ルモノトス而シテ不同意ノ確定債權者アリタル場合ニ於テハ破産者ハ他ノ破産債權者ノ同意ヲ得テ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ以テ不同意者ニ満足ヲ與ヘ破産廢止ノ申立ヲ爲スコトヲ得是レ破産者保護ノ目的ニ出ルモノナリ而シテ其満足ヲ與ヘタルヤ否ヤニ付テハ申立ノ際書面ニ依ル證明ヲ要ス又未確定ノ債權ニ付テハ裁判所ニ於テ其債權者ノ同意ヲ必要トスルヤ否ヤヲ定ム(草案第三百三十四條)法人ノ破産ノ場合ニハ破産廢止申立ノ特別要件トシテ豫メ定款ノ變更ニ關スル規定ニ從ヒ法人繼續ノ手續ヲ爲スコトヲ要シ申立ノ際ハ書面ニ依リテ



其證明ヲ爲スコトヲ要ス(草案第三百三十六條)

二 裁判所ハ其申立ニ依リ之ヲ調査シ不適法ト認メタルトキハ之ヲ棄却シ適法ト認メタルトキハ其申立アリタル旨ヲ公告シ且其申立ニ關スル書類ヲ裁判所書記課ニ備ヘ置キテ破産債權者ノ閱覽ニ供セシム而シテ破産債權者ハ右公告ノ日ヨリ二週間内ニ破産ノ廢止ニ付キ異議ヲ申立ツルコトヲ得其異議ハ未タ届出ヲ爲サル破産債權者モ亦之ヲ申立ツルコトヲ得ト雖モ其債權ノ存在ニ付キ疏明ヲ爲スコトヲ要ス(草案第三百三十八條)異議申立ノ期間經過後裁判所ハ破産者破産管財人及ヒ異議ヲ申立テタル破産債權者ノ意見ヲ聽キ破産廢止ノ申立ニ付キ決定ヲ爲ス(草案第三百三十九條)而シテ申立ヲ理由ナシトシテ棄却スルトキハ破産者ニ送達シ(草案第八條)又破産廢止ノ決定ハ其要領及ヒ原因ヲ公告ス(草案第四十一條)

三 效力 破産廢止ノ決定カ確定シタルトキハ管財人ハ異議ナキ財團債權者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス異議アル財團債權ニ付テハ其辨濟額ヲ供託ス(草案第二百四十條)又管財人ハ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス(草案第三百四十三條第二項)

破産者ハ破産財團ノ管理及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ回復シ(草案第三百十三條第二項)破産債權者ハ爾後債權表ニ基キテ箇々ノ強制執行ヲ爲スコトヲ得(草案第二百八十三條第二項)

第二 破産財團カ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサル場合ノ破産ノ廢止 是レ現行法ニ所謂破産ノ廢止ノ場合ニ該當スルモノナリ現行法ニ於テハ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキハ破産ノ宣告並ニ其公告ノ手續ヲ盡シ爾後ノ手續ヲ停止ス然レトモ爾後破産手續ノ費用ヲ償フニ足ル財産アルコトヲ利害關係人ヨリ證明スルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其手續ヲ再施ス而シテ其停止中ト雖モ破産者ニ對シテハ破産ノ效力ヲ持續ス唯破産債權者ニ對シテハ第四百九條ニ掲ケタル效力ヲ有シ箇々ノ強制執行ヲ爲スコトヲ得ト雖モ是レ破産者カ破産財團ニ屬スヘキ新ニ得タル財産等ヲ徒費シ去ランコトヲ豫防スルニ出テタルモノナリ故ニ破産手續再施ノ際ハ各債權者カ執行ニヨリテ得タル財産ハ財團ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス(草案第九百八十二條)



草案ニ於テハ破産宣告前ニ於テ財團カ破産手續費用ヲ償フニ足ラスト認メラレタルトキハ破産ノ申立ヲ棄却ス(草案第四百六條)然ルニ宣告後ニ於テ其事知レタルトキハ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ得尤モ裁判所ハ其決定前ニ債權者集會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス但破産債權者カ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ヲ豫納シタル場合及ヒ第四百四十七條ニ掲ケタル場合ハ廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス(草案第四百三條)

破産廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其決定ノ要領及ヒ原因ヲ公告スヘキコト並ニ爾後ノ效力ニ付テハ破産債權者カ破産手續續行權拋棄ノ場合ニ付キテ説明シタル所ト同シ(草案第三百四十一條)

第十七章 罰則

破産ニ關スル罰則ハ従前ハ之ヲ刑法中ニ規定スルノ例多カリシト雖モ近時ハ立法ノ便宜上ヨリ之ヲ破産法中ニ規定スルニ至レリ獨佛二法我現行法並ニ草案皆然リ而シテ刑法ノ總則ハ破産ニ關スル犯罪ニ付テモ原則トシテ皆適用セラルルニ至ルモノトス(刑法第五條第二項)又刑事破産ノ手續ハ總テ刑事裁判所ノ司ル所ニシテ破

産裁判所ノ管掌スル所ニ非ス  
 今破産ニ關スル罰則ノ適用ヲ受クル者ヲ其身分ニ依リ區別シテ説明スレハ左ノ如シ

第一 破産管財人

其職務ノ執行上民事ノ責任ニ付テハ善良ナル管理者ノ注意ヲ用ユルヲ要スルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ故ニ其注意ヲ怠リタルトキハ總テノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責任アリ(草案第六十一條)然ルニ國家ハ尙ホ之ニ刑事上ノ責任ヲ科シ管財人其職務ノ執行ヲ怠リタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處スルモノト爲セリ而シテ其過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百七條及ヒ第二百八條ノ規定ヲ準用ス(草案第三百四十四條)

現行法ニ於テハ管財人カ第五十條ニ所謂詐僞破産タル所爲ヲ爲シタルトキハ破産者ト同シク之ヲ罰スル旨ノ規定アリ(舊商法第一千二百五條末段)草案ニ於テハ斯カル特別ノ規定ナシ唯教唆者若クハ從犯者タル場合ニ刑法總則ノ規定ニ從フテ處罰セラルルコトアルノミ



第二 破産ニ關シ説明義務アル者

草案第百十八條ニ依リ説明ヲ爲ス義務アル者即チ破産者及ヒ其代理人、代理人、タリシ者並ニ相續人又相續財産ニ對スル破産ニ於ケル前戶主、相續人、相續財産、管理人及ヒ遺言執行者カ破産ニ關スル説明ノ爲メ管財人又ハ監査委員ノ請求アルモ正當ノ事由ナクシテ出頭セザリシトキ又ハ破産ニ關スル説明ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキ又ハ破産ニ關シ虚偽ノ説明ヲ爲シタルトキハ草案ニ於テハ六月以下ノ輕禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スルモノト爲セリ尤モ虚偽ノ説明ノ場合ハ破産ノ終結前自白ヲ爲セハ本刑ヲ免セラル(草案第三百四十五條)是レ斯種ノ制裁ヲクシハ之ヲ強制スルコト能ハスト認メタルニ依ルモノナリ現行法ニハ之ニ關スル規定ナシ

第三 破産者

草案第三百四十六條ニ列舉シタル行爲ハ現行法第千五十一條ニ列舉シタル所謂過怠破産ノ場合ニ相當ス又草案第三百四十七條ニ列舉シタル行爲ハ現行法第千五十條ニ列舉シタル所謂詐欺破産ノ場合ニ相當ス二者ノ處罰セラルル根

據ハ之ニ因リテ債權者ノ財産的請求權カ迫害ヲ被ムルノ點ニ在リ而シテ二者共ニ支拂ノ停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス行ハレタル行爲タルコトヲ豫想スルカ故ニ右兩條ニ列舉シタル破産行爲カ必スシモ支拂ノ停止又ハ破産宣告ノ原因トナリタルコトヲ要セス唯時ノ關係ニ於テ破産行爲ト支拂ノ停止又ハ破産宣告トハ前後ノ牽聯アルニ過キス又右ノ破産行爲ニ因リテ處罰セラル、ニハ必ス破産者タルコトヲ要スルコトハ現行法ニハ破産宣告ヲ受ケタル債務者ト曰ヒ草案ニハ破産者カ云々ト明言セルニ因リテ明瞭ナリ故ニ共犯關係ニ於テハ實行正犯者タル者ハ破産者ノミニ限ル故ニ現行法第千五十二條若クハ草案カ第百四十八條ニ所謂法人ノ代表者數人アル場合ニ於テ共同シテ破産行爲ヲ行ヒタル場合ニ於テ實行正犯者數人アルコトヲ得ヘシ故ニ破産者以外ノ共犯者トシテハ教唆者若クハ從犯者ナリトス而シテ故意ニ因ル犯罪ニ限リ共犯關係ハ成立スヘキモノナルカ故ニ共犯關係ノ適用アルハ詐偽破産ノ場合ナリトス殊ニ現行法ニ於テハ第千五十二條後段ニ於テ第千五十條ノ罰則ハ有罪行爲ヲ行フ際犯者ヲ助ケタル者ニモ亦適用スト明言スルニ由リテ之ヲ觀レ



ハ共犯ノ適用ハ獨リ詐偽破産ノミニ限ルノ主意ト解セサルヲ得ス  
又過怠破産ト詐偽破産トノ二者區別ノ要點ハ破産債權者ヲ害スル目的ヲ以テ  
爲シタル行爲タルト否トノ點ニ在リトス

又兩者ノ刑罰ニ付テハ現行法ハ過怠破産者ヲ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處  
シ詐偽破産者ヲ輕懲役ニ處スルモノトセリ(明治二十三年十一月法律第一號)然ルニ草案ニ於テ  
ハ前者ヲ六月以下ノ輕禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ後者ヲ輕懲役又ハ二  
年以上ノ重禁錮ニ處スルモノトセリ  
尙ホ兩者ノ各行爲ノ說明ハ之ヲ略ス

**第四** 破産者ノ法定代理人並ニ相續財産ノ破産ニ於ケル前戸主及ヒ相續人  
此等ノ者カ過怠破産若クハ詐偽破産ノ行爲ヲ行ヒタルトキハ彼レ等自身ハ破  
産者ニ非サルカ故ニ直チニ前述シタル規定ヲ適用スルコト能ハサルモ事實上  
ニ於テハ彼等自身ノ行爲カ破産者ノ行爲ト同視セラレヘキモノナルカ故ニ彼  
等自身ヲ以テ破産者ト同一ノ刑ニ處スルモノトス(草案第三百四十八條前段)

**第五 第三者**

支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス破産者ノ利益ノ爲メ破産財團ニ屬スヘ  
キ財産ヲ藏匿又ハ脱漏シタル者並ニ自己破産者又ハ第三者ノ利益ノ爲メ虚偽  
ノ債權ヲ破産債權トシテ行ヒ又ハ他人ヲシテ之ヲ行ハシメタル者ハ輕懲役又  
ハ二年以上ノ重禁錮ニ處ス(草案第三百四十九條)蓋シ前者ハ破産者ノ資産ヲ減少セシメ  
後者ハ負債ヲ増加セシムルモノニシテ支拂停止又ハ破産宣告アリタルコトヲ  
知リテ故意ニ債權者ヲ害スル目的ヲ以テ爲スモノタルコト明カナリ而シテ其  
行爲ハ草案第三百四十七條ニ列舉シタル第一號及ヒ第二號ニ該當シ破産者カ  
之ヲ行フトキハ詐偽破産トナル然ルニ本條ハ第三者カ之ヲ行フトコトヲ豫想ス  
ルモノナルモ其債權者ヲ害スル點ニ於テハ一ナリ故ニ同一ノ刑ヲ科ス現行法  
ニハ第一千五百條ノ行爲ヲ破産者ノ利益ノ爲メニ行ヒタル場合ノミヲ豫想シテ  
之ヲ處罰シタリ(舊商法第一千五百十二條末段)

**第六 破産債權者并ニ投票買收者**

債權者集會ニ於テ一定ノ表決ヲ爲シ又ハ表決ヲ爲ササルコトヲ條件トシテ賄  
賂其他ノ特別利益ヲ收受シ又ハ約束セシメタル破産債權者并ニ其相手方ハ一



年以下ノ重禁錮若クハ輕禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス且收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收シ沒收シ能ハサルモノハ其價額ヲ追徴ス尤モ破産債權者ノ相手方ニ在リテハ債權者集會ノ決議前ニ自白ヲ爲シタルトキハ其本刑ヲ免セラル(草案第三百五十一條第三)蓋シ本罪ハ債權者集會ニ於ケル決議投票ノ賣買ヲ禁壓シタルモノトナリ而シテ本罪ハ收受若クハ約束セシメタルノミニテ成立スルモノニシテ果シテ破産債權者カ買收ノ目的ニ從フテ投票シタルヤ否ヤ又其投票カ有效ニシテ能ク反對決議ヲ爲サシムルニ足リタルヤ否ヤ又其賄賂無クンハ債權者ハ反對ニ決議スル意思ナリシヤ否ヤ又債權者ハ果シテ該決議ニ參加シタリシヤ否ヤハ問ハサルモノトス

現行法ニ於テモ賄賂當事者ノ雙方ヲ二年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處スルモノトス(舊商法第一千五百三十三條)

### 第十八章 破産ヨリ生スル身上ノ效果

#### 第一節 身上效果ノ理由

破産者ノ公私權ノ上ニ何等ノ制限ヲ加ヘス普通人ト同一ニ取扱フコトハ今日ノ

如キ公德ノ未タ進歩セサル世ノ中ニ在リテハ到底能ハサル所ナリ何トナレバシ之ヲ同一ニ取扱ヘハ破産ノ忌ムヘキヲ知ラス他人ヲ害シテ容易ニ破産宣告ヲ受ケテ視トシテ耻チサルニ至ルヘケレハナリ殊ニ破産者ノ如キ恒産ナク信用ナキ者ハ社會上名譽アリ信用アル地位ニ立タシムルコトヲ得ス故ニ現行破産法並ニ他ノ特別法ニ於テハ幾多ノ制限アリ(舊商法第一千五百四條、市町村制第九條、選舉法第十條、貴族院選舉規則第三條等)

草案ニ於テハ他ノ特別法ニ於テ公私權ニ制限ヲ設クルモノハ格別破産其物ノ直接ノ效果トシテ身上ニ效果ヲ及ホス立法ノ仕方ハ之ヲ避ケタルモノ、如シ(草案三百六十)

#### 第一節 復權

復權トハ破産宣告ニ因リテ受ケタル身上ノ效果ヲ消滅セシムル裁判上ノ手續ナ

第一 要件 破産者カ辨濟其他ノ方法ニ依リ其債務ノ全部ノ免責ヲ得タルコトヲ要ス(草案第三百五十二條)故ニ如何ナル方法ニ依ルモ債務全部ノ免責アレハ足レリ然

破産法 破産ヨリ生スル身上ノ效果 身上效果ノ理由 復權



ハニ現行法ニ於テハ債務全額ノ辨償ヲ要スルモノトシ其辨償トハ現實的ノ債務消滅方法ヲ意味シ免除時効等ニ因ル免責方法ヲ包含セサルカ如シ是レ無用ノ干渉ト云フヘキカ故ニ草案ハ之ヲ廢セリ(舊商法第千)又現行法ニ於テハ詐偽破産者過怠破産者等ニ付テモ復權申立ニ付テ或ハ全ク之ヲ許サズ或ハ其期間ニ付テ制限ヲ設ケタルモ草案ハ必要ナシトシテ之ヲ廢セリ(舊商法第千)又現行法ニ於テ債務者ノ死亡後モ親族故舊等ヨリ其申立ヲ爲スコトヲ許シタルハ是レ其死亡後ノ名譽ヲ重ンセシメンカ爲メナリ

第二 申立 申立人ハ其申立ト共ニ債務ノ全部ノ免責ヲ證スル書面又ハ其謄本ヲ提出スルコトヲ要ス(草法第三百)現行法ニ於テハ所在ノ知レサル爲メ辨償スルコト能ハサリシ債權者ノ爲メニスル準備及ヒ資力ニ付テハ其證明ヲ爲スコトヲ要スルモノトシ其證明書ハ勿論他ノ債權者ニ辨濟シタル受取證等必要ナル證據物件ハ皆之ヲ添附スヘキモノトナセリ(舊商法第千五)

第三 裁判 復權事件ノ管轄ハ破産裁判所トス是レ其審理ノ便利アルニ由ル而シテ裁判所ハ復權ノ申立カ不適法ナルトキ即チ申立人カ必要ナル書面ヲ提出

セサルトキ又ハ復權ノ申立ニ必要ナル條件ノ具備セサルコトカ提出シタル書面ニ依リテ明カナルトキハ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス尤モ一定ノ期間内ニ欠缺ノ補正ヲ命スルコトヲ得(草案第三百)

裁判所ハ申立ヲ適法ナリト認メタルトキハ其申立ニ付キ異議アラハ三個月内ニ其申立ヲ爲スヘキ旨ヲ公告ス而シテ復權申立ニ關スル書類ハ裁判所書記課ニ備置キテ利害關係人ノ閱覽ニ供ス(草案第三百)現行法ニ於テハ異議申立期間ハ二個月ニシテ復權ノ申立ハ裁判所ノ揭示場ト取引所トニ揭示シ且裁判所ノ見込ニ依リ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告シ又調査及ヒ捜査ノ爲メ檢事ニ通知ス(舊商法第千五十六項)

裁判所ハ異議申立期間經過後復權申立人及ヒ異議申立アリタルトキハ異議申立人ヲ審訊シタル後復權ノ許否ニ付キ決定ヲ爲ス(草案第三百)現行法ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後復權ノ許否ニ付キ決定ヲ爲ス(舊商法第千五)該決定ニ對シテ異議者若クハ申立人ヨリ即時抗告ニ依リ不服ヲ申立テ得ルハ勿論トス而シテ現行法ニハ棄却セラレタル申立ヲ再ヒ申立ツルニ付テ期間ノ

破産法 破産ヨリ生スル身上ノ效果 復權



制限ヲ置ケルモ草案ハ之ヲ廢セリ(舊商法第三千五百五十六條第三項)而シテ許可ノ決定確定シタルトキハ其要領ヲ公告ス(草案第三百五十八條第)

第四 效力 復權許可ノ決定ハ其確定ノ後ニアラサレハ其效力ヲ生セス(草案第五十七條)是レ普通ノ決定ノ如ク其確定前ニ效力ヲ有セシムルトキハ後ニ其許可ノ決定取消サルトキハ不都合ノ結果ヲ生スルヲ以テナリ現行法ニ於テモ假執行ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セサル限リハ其確定ノ時ヨリ效力ヲ生スルヲ當然トス而シテ其時ヨリ破産者タル資格ヲ消滅セシムルニ至ルモノナリ

### 第十九章 支拂猶豫

第一 支拂猶豫ノ性質并ニ必要

支拂猶豫ノ制度ハ恰モ破産宣告前ニ於ケル辨濟期限猶豫ノ強制和議ニ該當スルモノナリ強制和議ハ既ニ述ヘタル如ク破産者ノ爲メニ破産手續ヲ終結セシムル強制的和解ナリ支拂猶豫ハ破産ノ宣告ヲ防止シテ辨濟ノ猶豫ヲ非破産者ニ與フル爲メノ強制的和解ナリ即チ一定ノ多數ノ承諾アルトキハ他ハ法律ノ力ヲ以テ服従ヲ強制スルモノナリ斯カル制度ヲ必要トスル所以ハ猶ホ破産宣

告後ニ於ケル強制和議ヲ必要トスルカ如シ蓋シ破産手續ヲ一旦開始セハ強制和議ノ場合ヲ除ク外破産財團ヲ總テ換價シテ之ヲ債權者ニ配當スルコトヲ目的トスルカ故ニ破産者ハ到底其營業ヲ再興スルコト能ハス加之其身上ニハ屈辱的ノ效果ヲ受ケテ公私權ノ上ニ制限ヲ受クルニ至ル又債權者ノ爲メヨリ云フモ破産手續ヲ開始スルトキハ之カ爲メニ多クノ費用ト勞力ト時間トヲ要シ多クハ所謂費用倒レトナリテ終ルモノナリ故ニ此等ノ諸弊ヲ除去スル爲メニ一時窮境ニ陷レル債務者ヲシテ破産手續ヲ開始スルニ至ラスシテ其營業ヲ繼續セシメ其逆境ヨリ脱出スルコトヲ圖リタルモノナリ然レトモ如何ナル債務者ノ爲メニモ之ヲ許スニ非ス又之カ猶豫ヲ許ス期間ニモ制限無キニ非ス即チ其之ヲ許スハ唯リ過失ナクシテ支拂ヲ中止セサルヘカラサルニ至リタル債務者ニ限り又其猶豫ヲ許ス期間ハ一年ヲ超エサルモノトス又其延長モ一回ニ限り一ケ年ヲ超エサル範圍内ニ於テ爲スコトヲ得ルニ過キササルモノトス(舊商法第十二條第二項)然ルニ草案ニ於テハ支拂猶豫ノ制度ハ之ヲ廢止セリ是レ草案ハ現行法ニ比ス



レハ破産者ニ對シテ寛裕ナル主義ヲ取リタルト支拂猶豫ハ久シク之ヲ實施シタル歐洲諸國ニ在リテモ其結果良好ナラス猶豫期間内却テ債權者ヲ害スルカ如キ債務者ノ行爲ヲ生シ弊害ヲ生スルコトアルヲ虞レタルトニ由ルモノナリ

第二 支拂猶豫ノ成立

其成立ニハ債務者ノ申立ト債權者ノ承諾ト裁判所ノ認可トヲ必要トス

- 一 債務者ノ申立 現行法ハ商人ニノミ破産アリトノ主義ヲ採用シタルカ故ニ破産宣告ノ豫防タル支拂猶豫ノ申立モ亦唯リ商人ノミヨリ之ヲ爲スコトヲ得且商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ付キ自己ノ過失ナクシテ支拂ヲ中止セサルヘカラサルニ至リタル場合ニ於テノミ申立ツルコトヲ得ルモノトス
- 支拂ノ中止トハ支拂ノ一時ノ停止ニシテ多少財産上ノ回復ノ見込アル場合ヲ云フモノトス隨テ支拂猶豫ノ申立ヲ爲スニハ舊商法第千六十條第一號乃至第三號ニ列擧シタル事項ヲ證明シタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス
- 支拂猶豫事件ノ管轄裁判所ハ債務者ノ營業所所在地又ハ住所地ヲ管轄スル裁判所ナリ管轄裁判所ハ適法ナル申立アリタルトキハ申立及ヒ添附書類ヲ

公衆ノ展閱ニ供スル爲メ之ヲ裁判所ニ備置キ且債權者ノ集會期日ヲ定メテ之ト共ニ其備置キタル旨ヲ公告スルコトヲ要ス債權者ハ集會ノ爲メ各別ノ招集ヲ受ク茲ニ所謂債權者トハ債務者ノ提出シタル債權者名簿ニ記載スル所ノモノ是ナリ

又裁判所ハ假ニ支拂猶豫ノ許可ヲ與フルコトヲ得是レ其間ニ破産宣告ニ至ルコトアルヲ避ケンカ爲メナリ

二 債權者ノ承諾 債權者集會期日ニ於テハ裁判所ヨリ任セラレタル主任判事ノ上席ヲ以テ債務者ト債權者トノ間ニ支拂猶豫ノ申立ニ付キ辯論ヲ爲ス其辯論及ヒ議決ニ付テハ調書ヲ作ル而シテ其申立ニ對スル承諾トシテハ第千三十六條ニ掲ケタル過半数ノ多數ノ議決ヲ必要トス(舊商法第千六十一條)

三 裁判所ノ認可 裁判所ハ主任判事ノ演述ヲ聽キテ債權者ノ承諾アリタル支拂猶豫ノ認否ニ付キ決定ノ形式ヲ以テ裁判ヲ爲ス認可ノ決定ヲ爲スニ付テハ支拂猶豫ノ申立并ニ承諾カ法定ノ要件ニ適ヒタルヤ否ヤ又其承諾ノ決議ヲ爲スニハ不正ノ手段ノ行ハレタルコトナキヤ否ヤ又其議決ハ債權者ノ



一般ノ利益ニ適スルヤ否ヤ等ヲ調査シテ之ヲ爲ス其認否ノ決定ニ對シテハ不服者ヨリ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得(舊商法第一千六十二條第一項)

### 第三 支拂猶豫ノ效力

有效ナル支拂猶豫ノ成立シタルトキハ猶豫期間中其以前ニ取結ヒタル商取引ヨリ生スル債權ノ爲メニ強制執行及ヒ破産宣告ヲ受クルコトナシ是レ支拂猶豫ノ效力ノ最モ主要ナルモノトス  
支拂猶豫ノ期間ハ一ケ年以内ニ限ルト雖モ債務者其間ニ十分ナル資力ノ恢復ヲ爲スコトヲ得スシテ債務者更ニ其申立ヲ爲ストキハ一回ニ限り當初ノ如キ手續ヲ履ミテ其期間ヲ延長スルコトヲ得其期間ハ是レ亦一ケ年ヲ超ユルコトヲ得ス

支拂猶豫ノ履行及ヒ業務ノ執行ニ關シテハ主任判事ノ監督ヲ受ク是レ猶ホ協諧契約ノ履行ハ破産主任官之ヲ爲スカ如シ  
支拂猶豫ヲ得タル債務者ノ保證人及ヒ共同義務者ノ義務ハ支拂猶豫ノ爲ニ變更ヲ受クルコト無キハ勿論トス是レ協諧契約不履行ノ場合ニ於テ保證人ノ義

務ヲ免レサルト一般ナリ(舊商法第一千六十三條、第一千四百三十三條、第一千四百三十四條第二項)

### 第四 支拂猶豫ノ消滅

支拂猶豫カ債權者ノ承諾ヲ得ス若クハ裁判所之ヲ棄却シテ認可ヲ與ヘサルトキハ最初ヨリ該支拂猶豫ハ無効タルナリ又後日ニ至リ債務者ノ詐偽若クハ不正ノ爲メ若クハ法律上ノ條件ノ缺クルカ爲メ之ヲ廢止シタルトキ又ハ債務者ニ於テ其契約ヲ履行セサルトキ又ハ其猶豫期間中債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ヨリ強制執行ヲ爲ストキハ猶豫契約ハ其效力ヲ失ヒ直チニ債務者ニ對シテ破産手續ヲ開始ス他ノ債權者トハ集會ニ參加シ猶豫契約ノ效力ヲ受クヘキ者以外ノ債權者ヲ云フ此等ノ者カ個々ノ強制執行ヲ開始スルトキハ其者ノミ優先的辨濟ヲ受クルニ至リ破産財團ハ爲メニ減少シ不公平ヲ生スルヲ以テ直チニ破産手續ヲ開始スルノ優レルニ若カスト認メタルニ由ルモノナリ  
而シテ右ノ如ク猶豫契約ノ無効ナル場合ニ於テ破産手續ヲ開始スルニハ支拂停止ノ日時ヲ何レニカ定メサルヘカラス其日時ハ支拂猶豫申立ノ日附トナセリ是レ支拂猶豫カ其效力ヲ失ヒタルニヨリ支拂停止ノ日時ヲ早クヨリ之ヲ認



W325.01  
SH95B  
1(2)

破  
産  
法  
畢

メテ以テ債權者保護ヲ計リタルモノナリ

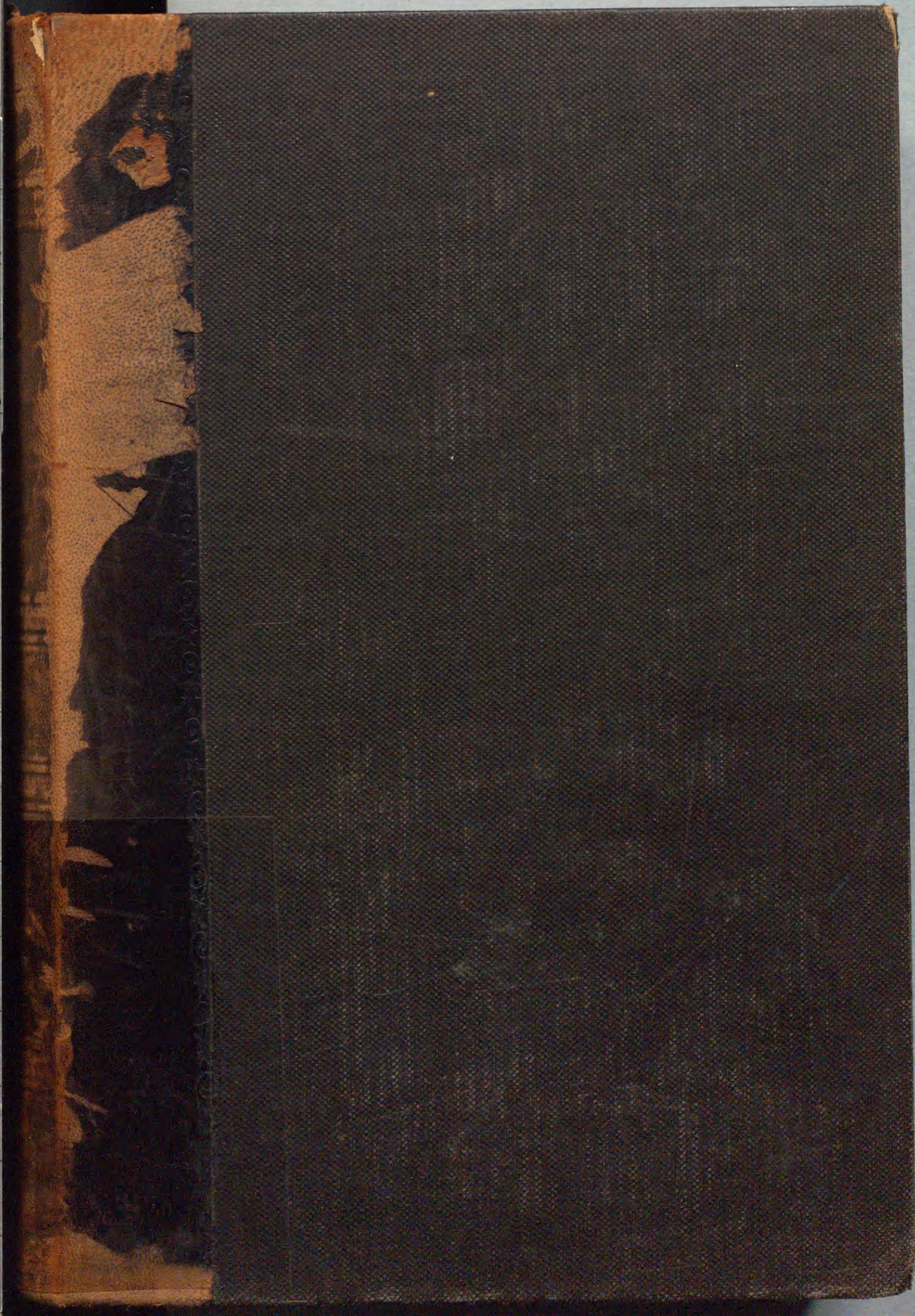


最高裁判所図書館



000127805





Inches 1 2 3 4 5 6 7 8  
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

### Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black
[Patch 1]	[Patch 2]	[Patch 3]	[Patch 4]	[Patch 5]	[Patch 6]	[Patch 7]	[Patch 8]	[Patch 9]
[Patch 10]	[Patch 11]	[Patch 12]	[Patch 13]	[Patch 14]	[Patch 15]	[Patch 16]	[Patch 17]	[Patch 18]

### Kodak Gray Scale

**C** **Y** **M**

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A	1	2	3	4	5	6	M	8	9	10	11	12	13	14	15	B	17	18	19
[Patch 1]	[Patch 2]	[Patch 3]	[Patch 4]	[Patch 5]	[Patch 6]	[Patch 7]	[Patch 8]	[Patch 9]	[Patch 10]	[Patch 11]	[Patch 12]	[Patch 13]	[Patch 14]	[Patch 15]	[Patch 16]	[Patch 17]	[Patch 18]	[Patch 19]	[Patch 20]